

(様式第10)

7京医大第 864 号

令和 7 年 10 月 3 日

厚生労働大臣 殿

開設者名 京都府公立大学法人

理事長 金田 章裕

京都府立医科大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和6年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒602-8566 京都市上京区河原町通広小路 upper 梶井町465
氏名	京都府公立大学法人

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

京都府立医科大学附属病院
--------------

3 所在の場所

〒602-8566 京都市上京区河原町通広小路 upper 梶井町465
電話( 075 )251 - 5111

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有						
内科と組み合わせた診療科名等							
<input type="radio"/>	1呼吸器内科	<input type="radio"/>	2消化器内科	<input type="radio"/>	3循環器内科	<input type="radio"/>	4腎臓内科
<input type="radio"/>	5神経内科	<input type="radio"/>	6血液内科	<input type="radio"/>	7内分泌内科	<input type="radio"/>	8代謝内科
<input type="radio"/>	9感染症内科	<input type="radio"/>	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科	<input type="radio"/>	11リウマチ科		
診療実績							
「神経内科」の診療内容は脳神経内科で提供している。 「感染症内科」の診療内容は内科で提供している。							

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。  
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

## (2) 外科

外科						有	
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科	○	2消化器外科	○	3乳腺外科	○	4心臓外科
○	5血管外科	○	6心臓血管外科	○	7内分泌外科	○	8小児外科
診療実績							

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。  
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

## (3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科	○	7産婦人科		8産科
	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

(注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

## (4) 歯科

歯科						有	
歯科と組み合わせた診療科名							
	1小児歯科		2矯正歯科		3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。  
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

## (5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	移植外科	2	小児心臓血管外科	3	形成外科	4	リハビリテーション科	5	病理診断科
6	脳神経内科	7	内分泌・糖尿病・代謝内科	8	内分泌・乳腺外科	9	精神科・心療内科	10	救急医療科
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

## 5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計	(単位:床)
118		54		883	1055	

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	266	304	562.9
歯科医師	4	20	24
薬剤師	63	6	67.7
保健師	0	0	0
助産師	26	0	26
看護師	808	72	862.1
准看護師	0	2	0.8
歯科衛生士	8	0	8
管理栄養士	11	5	14.7

職種	員数
看護補助者	48
理学療法士	19
作業療法士	7
視能訓練士	11
義肢装具士	0
臨床工学士	23
栄養士	5
歯科技工士	2
診療放射線技師	61

職種	員数
診療エックス線技師	0
臨床検査技師	72
臨床検査 衛生検査技師	0
その他	0
あん摩マッサージ指圧師	0
医療社会事業従事者	7
その他の技術員	18
事務職員	257
その他の職員	12

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めなくて記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	70	眼科専門医	19
外科専門医	59	耳鼻咽喉科専門医	13
精神科専門医	11	放射線科専門医	31
小児科専門医	35	脳神経外科専門医	10
皮膚科専門医	5	整形外科専門医	24
泌尿器科専門医	12	麻酔科専門医	28
産婦人科専門医	22	救急科専門医	13
		合計	352

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 ( 佐和 貞治 ) 任命年月日 令和 5 年 4 月 1 日

平成27年4月1日 ~ 令和5年3月31日 医療安全推進部長(令和3年3月31日までは医療安全管理部長)を務める。  
 平成28年9月30日 ~ 令和3年3月31日 医療安全管理責任者を務める。

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	496.8 人	2.1 人	498.9 人
1日当たり平均外来患者数	1760.4 人	176 人	1936.4 人
1日当たり平均調剤数		1493	剤
必要医師数		151	人

必要歯科医師数	10	人
必要薬剤師数	19	人
必要(准)看護師数	315	人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。  
2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。  
3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。  
4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。  
5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二条

#### 10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
			病床数		心電計	
集中治療室	499.1 ㎡	鉄骨鉄筋コンクリート	病床数	23 床	心電計	有
			人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
			その他の救急蘇生装置	有	ペースメーカー	有
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	181.7	㎡	病床数	9 床
	[移動式の場合]	台数	9	台		
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床面積			37	㎡
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	211 ㎡	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備)	生化学自動分析装置、免疫自動分析装置、検体前処理装置、全自動グリコヘモグロビン測定装置、血糖検査機器、多項目自動血球分析装置、凝固検査機器、全自動細胞解析装置		
細菌検査室	216.29 ㎡	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備)	安全キャビネット、全自動血液培養検査装置、細菌同定検査装置、薬剤感受性検査装置、抗酸菌遺伝子検査装置、抗酸菌液体培養検査装置		
病理検査室	260.23 ㎡	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備)	安全キャビネット、ホルマリン対策局所廃棄装置、写真撮影装置、脱脂脱水包埋装置、自動染色機、クライオスタット、硬組織用切断機、自動封入機、顕微鏡システム、画像データベース、バーチャルスライドシステム		
病理解剖室	75 ㎡	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備)	L地形ステンレス解剖台、写真撮影装置、ディープフリーザー、消毒装置、マクロ標本棚、体液吸引装置、脱脂脱水包埋装置		
研究室	3792 ㎡	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備)	核磁気共鳴装置、スペクトロメーター、画像解析装置、遠心器、マイクローム、光度計、血液分析装置		
講義室	616 ㎡	鉄骨鉄筋コンクリート	室数	4 室	収容定員	420 人
図書室	1080 ㎡	鉄骨鉄筋コンクリート	室数	27 室	蔵書数	14000 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。  
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

#### 11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	92.4	%	逆紹介率	105.6	%
算出	A: 紹介患者の数		16,012		人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		24,112		人

根拠	C:救急用自動車によって搬入された患者の数	5,093	人
	D:初診の患者の数	22,838	人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

## 12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
松村 由美	京都大学医学部附属病院	○	特定機能病院の医療安全管理体制に精通している。	無	1
平野 哲郎	立命館大学法科大学院 法務研究科		法律研究者として関係の法律に精通している。	無	1
清水 智治	滋賀医科大学医学部附属病院		医療安全管理に関する専門的知識を有している。	無	1
秋篠 憲一			本院の患者として医療を受ける者の代表	無	2

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。  
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者  
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)  
3. その他

## 13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
京都府公立大学法人のホームページにて掲載	





(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 3 その他の高度の医療

医療技術名	該当なし	取扱患者数
当該医療技術の概要		
医療技術名		取扱患者数
当該医療技術の概要		
医療技術名		取扱患者数
当該医療技術の概要		
医療技術名		取扱患者数
当該医療技術の概要		
医療技術名		取扱患者数
当該医療技術の概要		
医療技術名		取扱患者数
当該医療技術の概要		
医療技術名		取扱患者数
当該医療技術の概要		
医療技術名		取扱患者数
当該医療技術の概要		
医療技術名		取扱患者数
当該医療技術の概要		

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	
扱い患者数の合計(人)	0

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	4	56	ベーチェット病	74
2	筋萎縮性側索硬化症	26	57	特発性拡張型心筋症	38
3	脊髄性筋萎縮症	1	58	肥大型心筋症	5
4	原発性側索硬化症	1	59	拘束型心筋症	1
5	進行性核上性麻痺	11	60	再生不良性貧血	23
6	パーキンソン病	120	61	自己免疫性溶血性貧血	1
7	大脳皮質基底核変性症	5	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	5
8	ハンチントン病	0	63	免疫性血小板減少症	32
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	1
10	シャルコー・マリエ・トゥース病	9	65	原発性免疫不全症候群	9
11	重症筋無力症	90	66	IgA 腎症	98
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	34
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	81	68	黄色靱帯骨化症	17
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	25	69	後縦靱帯骨化症	58
15	封入体筋炎	4	70	広範脊柱管狭窄症	16
16	クドウ・深瀬症候群	1	71	特発性大腿骨頭壊死症	59
17	多系統萎縮症	5	72	下垂体性ADH分泌異常症	6
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	36	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
19	ライソゾーム病	6	74	下垂体性PRL分泌亢進症	3
20	副腎白質ジストロフィー	1	75	クッシング病	1
21	ミトコンドリア病	9	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もよもや病	6	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	13
23	プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症	54
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	1	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	13
27	特発性基底核石灰化症	2	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	73	83	アジソン病	1
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	59
30	遠位型ミオパチー	3	85	特発性間質性肺炎	17
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	22
32	自己食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンペル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	53
34	神経線維腫症	26	89	リンパ脈管筋腫症	1
35	天疱瘡	8	90	網膜色素変性症	9
36	表皮水疱症	2	91	バッド・キアリ症候群	0
37	膿疱性乾癬(汎発型)	14	92	特発性門脈圧亢進症	0
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	27	93	原発性胆汁性肝硬変	34
39	中毒性表皮壊死症	10	94	原発性硬化性胆管炎	7
40	高安動脈炎	17	95	自己免疫性肝炎	15
41	巨細胞性動脈炎	17	96	クローン病	153
42	結節性多発動脈炎	10	97	潰瘍性大腸炎	310
43	顕微鏡的多発血管炎	40	98	好酸球性消化管疾患	3
44	多発血管炎性肉芽腫症	22	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	1
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	34	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	18	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	バージャー病	14	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	4	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	238	104	コストロ症候群	1
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	113	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	91	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	35	107	全身型若年性特発性関節炎	30
53	シェーグレン症候群	45	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人発症スチル病	19	109	非典型性溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	4	110	ブラウ症候群	0

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	1	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	24
113	筋ジストロフィー	5	163	特発性後天性全身性無汗症	4
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	3	167	マルファン症候群/ロイス・ディーツ症候群	6

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

118	脊髄髄膜瘤	1	168	エーラス・ダンロス症候群	1
119	アイザックス症候群	2	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシタル・ホーン症候群	0
121	脳内鉄沈着神経変性症	0	171	ウィルソン病	5
122	脳表ヘモジデリン沈着症	0	172	低ホスファターゼ症	0
123	HTRA1関連脳小血管病	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動	9	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー病	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	2	177	有馬症候群	1
128	ピッカースタッフ脳幹炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	1
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリス症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスマンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	1
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脚症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	0
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	ブラダー・ウィリ症候群	1
144	レノックス・ガストー症候群	1	194	ソズ症候群	0
145	ウエスト症候群	1	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンブソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	1	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マジニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	2
154	睡眠時棘徐波活性化を示す発達性てんかん性脳	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	1	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	10	208	修正大血管転位症	3
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	3
160	先天性魚鱗癬	1	210	単心室症	3

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	1	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ	0
212	三尖弁閉鎖症	2	260	システロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	3	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	5	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	4	263	脳腫黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	3	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	3	266	家族性地中海熱	2
219	ギャロウェイ・モフト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	0	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候	0
222	一次性ネフローゼ症候群	57	270	慢性再発性多発性骨髄炎	1
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	1	271	強直性脊椎炎	27
224	紫斑病性腎炎	8	272	進行性骨化性線維異形成症	1
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	1	274	骨形成不全症	1
227	オスラー病	3	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	1
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫症/ゴーム病	0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	1
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	3
232	カーニー複合	1	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノナー・ウェーバー症候群	1
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	0	283	後天性赤芽球癆	0

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

236	偽性副甲状腺機能低下症	0	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンconi貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	2	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	2
240	フェニルケトン尿症	1	288	自己免疫性出血病XIII自己免疫性後天性凝固因	2
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	4
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸型)	0
244	メーブルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	1
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	2	296	胆道閉鎖症	0
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	1
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性腭炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	16
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	1
254	ポルフィリン症	1	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	2	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	32

疾患名		患者数	疾患名		患者数
307	カナバン病	0	329	無虹彩症	5
308	進行性白質脳症	0	330	先天性気管狭窄症	1
309	進行性ミオクローヌスてんかん	0	331	特発性多中心性キャッスルマン病	8
310	先天異常症候群	0	332	膠様滴状角膜ジストロフィー	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	1	334	脳クレアチン欠乏症候群	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	335	ネフロン癆	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	336	家族性低βリポタンパク血症1(ホモ接合体)	0
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/LMX1B関連腎症	0	337	ホモシスチン尿症	0
316	カルニチン回路異常症	0	338	進行性家族性肝内胆汁うっ滞症	0
317	三頭酵素欠損症	0	339	MECP2重複症候群	0
318	シトリン欠損症	1	340	綿毛機能不全症候群(カルタゲナー症候群を含む)	0
319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	0	341	TRPV4異常症	0
320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0	342	LMNB1 関連大脳白質脳症	0
321	非ケトーシス型高グリシン血症	0	343	PURA 関連神経発達異常症	0
322	β-ケトチオラーゼ欠損症	0	344	極長鎖アシル-CoA 脱水素酵素欠損症	0
323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0	345	乳児発症 STING 関連血管炎	0
324	メチルグルタコン酸尿症	0	346	原発性肝外門脈閉塞症	0
325	遺伝性自己炎症疾患	0	347	出血性線溶異常症	0
326	大理石骨病	0	348	口ウ症候群	0
327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	1			
328	前眼部形成異常	3			

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	151
合計患者数(人)	2915

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・患者サポート体制充実加算
・歯科外来診療環境体制加算2	・報告書管理体制加算
・歯科外来診療医療安全対策加算2	・褥瘡ハイリスク患者ケア加算
・歯科外来診療感染対策加算4	・ハイリスク妊娠管理加算
・歯科診療特別対応連携加算	・ハイリスク分娩管理加算
・特定機能病院入院基本料(結核)7対1	・術後疼痛管理チーム加算
・特定機能病院入院基本料(一般)7対1	・後発医薬品使用体制加算1
・救急医療管理加算	・病棟薬剤業務実施加算1
・超急性期脳卒中加算	・病棟薬剤業務実施加算2
・診療録管理体制加算1	・データ提出加算2
・医師事務作業補助体制加算1 20対1	・入退院支援加算1
・急性期看護補助体制加算 (25対1 看護補助者5割以上、夜間100対1)	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・看護職員夜間配置加算 看護職員夜間12対1配置加算1	・精神疾患診療体制加算
・看護配置加算	・精神科急性期医師配置加算2のロ
・看護補助加算1	・地域医療体制確保加算
・療養環境加算	・特定集中治療室管理料2
・重症者等療養環境特別加算	・特定集中治療室管理料の注5に規定する 早期栄養介入管理加算(ICU)
・無菌治療室管理加算1	・特定集中治療室管理料6
・無菌治療室管理加算2	・ハイケアユニット入院医療管理料1
・放射線治療病室管理加算 (治療用放射線同位元素による場合)	・ハイケアユニット入院医療管理料2
・放射線治療病室管理加算(密封小線源による場合)	・脳卒中ケアユニット入院医療管理料
・緩和ケア診療加算	・総合周産期特定集中治療室管理料
・小児緩和ケア診療加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・精神科応急入院施設管理加算	・小児入院医療管理料2
・精神科身体合併症管理加算	・小児入院医療管理料2 注2保育士2名
・摂食障害入院医療管理加算	・小児入院医療管理料5 無菌治療室管理加算2
・栄養サポートチーム加算	・小児入院医療管理料2 注10看護補助体制充実加算
・医療安全対策加算1	・緩和ケア病棟入院料1
・感染対策向上加算1	・精神科急性期治療病棟入院料1
・	・

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス疾患指導料	・療養・就労両立支援指導料の注3に掲げる相談支援加算
・外来栄養食事指導料の注3	・がん治療連携計画策定料
・心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算	・ハイリスク妊産婦連携指導料1
・糖尿病合併症管理料	・ハイリスク妊産婦連携指導料2
・がん性疼痛緩和指導管理料	・こころの連携指導料(Ⅱ)
・がん患者指導管理料イ	・プログラム医療機器等指導管理料
・がん患者指導管理料ロ	・薬剤管理指導料
・がん患者指導管理料ハ	・医療機器安全管理料1
・がん患者指導管理料ニ	・医療機器安全管理料2
・外来緩和ケア管理料	・精神科退院時共同指導料1及び2
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・歯科疾患管理料の注10に掲げる総合医療管理加算 歯科治療時医療管理料
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・救急患者連携搬送料
・糖尿病透析予防指導管理料	・在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注2に掲げる遠隔モニタリング加算
・小児運動器疾患指導管理料	・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・在宅経肛門的自己洗腸指導管理料
・婦人科特定疾患治療管理料	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定
・腎代替療法指導管理料	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
・一般不妊治療管理料	・遺伝学的検査の注1
・生殖補助医療管理料1	・染色体検査 (流産検体を用いた絨毛染色体検査を行った場合)
・下肢創傷処置管理料	・骨髄微小残存病変量測定
・慢性腎臓病透析予防指導管理料	・BRCA1/2遺伝子検査(腫瘍細胞、血液)
・院内トリアージ実施料	・がんゲノムプロファイリング検査
・夜間休日救急搬送医学管理料の注3に掲げる救急搬送看護体制加算1	・角膜ジストロフィー遺伝子検査
・外来放射線照射診療料	・先天性代謝異常症検査
・外来腫瘍化学療法診療料1	・抗アデノ随伴ウイルス9型(AAV9)抗体
・外来腫瘍化学療法診療料_連携充実加算	・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
・ニコチン依存症管理料	・HPV核酸検出及びHPV核酸検出 (簡易ジェノタイプ判定)
施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出	・CT撮影(16列以上64列未満のマルチスライス型の機器による場合)MRI撮影(1.5テスラ以上3テスラ未満の機器による場合)
・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(髄液)	・冠動脈CT撮影加算

・検体検査管理加算(Ⅳ)	・心臓MRI撮影加算
・国際標準検査管理加算	・処方料の注6に掲げる抗悪性腫瘍剤処方管理加算 処方箋料の注5に掲げる抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・遺伝カウンセリング加算	・外来化学療法加算1
・遺伝性腫瘍カウンセリング加算	・無菌製剤処理料
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
・胎児心エコー法	・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
・ヘッドアップティルト試験	・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
・長期継続頭蓋内脳波検査	・がん患者リハビリテーション料
・単線維筋電図	・リンパ浮腫複合的治療料
・脳波検査判断料1	・歯科口腔リハビリテーション料2
・神経学的検査	・経頭蓋磁気刺激療法
・補聴器適合検査	・通院・在院精神療法の注8に掲げる療養生活継続支援加算
・黄斑局所網膜電図	・認知療法・認知行動療法1
・全視野精密網膜電図	・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
・ロービジョン検査判断料	・医療保護入院等診療料
・コンタクトレンズ検査料1	・静脈圧処置(慢性静脈不全に対するもの)
・小児食物アレルギー負荷検査	・多血小板血漿処置
・内服・点滴誘発試験	・硬膜外自家血注入
・経頸静脈的肝生検	・エタノールの局所注入(甲状腺)
・前立腺針生検法(MRI撮影及び超音波検査融合画像によるもの)	・人工腎臓1
・経気管支凍結生検法	・導入期加算3及び腎代替療法実績加算
・有床義歯咀嚼機能検査1の口及び咀嚼能力検査	・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
・精密触覚機能検査	・下肢末梢動脈疾患指導管理加算
・画像診断管理加算1	・移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法
・遠隔画像診断	・ストーマ合併症加算
・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影影 (アミロイドPETイメージング剤を用いた場合を除く。)	・手術用顕微鏡加
・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影影影 (アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る。)	・口腔粘膜処置
施設基準の種類	施設基準の種類
・う蝕歯無痛的窩洞形成加算	・人工中耳植込術
・CAD/CAM冠	・植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術、人工内耳植込術、 植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・歯科技工加算1及び2	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うもの)
・センチネルリンパ節加算	・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術 (軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)
・自家脂肪注入	・内喉頭筋内注入術(ボツリヌス毒素によるもの)

・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
・四肢・躯幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に掲げる処理骨再建加算	・喉頭形成手術(甲状軟骨固定器具を用いたもの)
・骨移植術(軟骨移植術を含む。) (自家培養軟骨移植術に限る。)	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)、 下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)
・人工股関節置換術(手術支援装置を用いるもの)	・乳腺腫瘍画像ガイド下吸引術(一連につき) (MRIによるもの)
・後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)	・頭頸部悪性腫瘍光線力学療法
・椎間板内酵素注入療法	・乳がんセンチネルリンパ節加算1及び センチネルリンパ節生検(併用)
・緊急穿頭血腫除去術	・乳がんセンチネルリンパ節加算2及び センチネルリンパ節生検(単独)
・内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術	・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術 (腋窩郭清を伴わないもの) 及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術	・乳腺悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術 (内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・癒着性脊髄くも膜炎手術(脊髄くも膜剥離操作を行うもの)	・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術 (内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術 (過活動膀胱)	・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術 (内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・角結膜悪性腫瘍切除手術	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術 (区域切除で内視鏡支援機器を用いる場合)
・角膜移植術(内皮移植加算)	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超える もので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・羊膜移植術	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術 (プレートのあるもの))	・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、 十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、等
・緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)	・縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術 (内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの) 高速回転式経皮経管アテレクトミーカテーテルによるもの エキシマレーザー血管形成用カテーテルによるもの アテローム切除アブレーション式血管形成術用カテー テルによるもの
・毛様体光凝固術(眼内内視鏡を用いるものに限る。)	・胸腔鏡下弁形成術

<ul style="list-style-type: none"> <li>・網膜付着組織を含む硝子体切除術 (眼内内視鏡を用いるもの)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・胸腔鏡下弁置換術</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・網膜再建術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経カテーテル大動脈弁置換術</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・経外耳道的内視鏡下鼓室形成術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経カテーテル弁置換術(経皮的肺動脈弁置換術)</li> </ul>
<p style="text-align: center;">施設基準の種類</p>	<p style="text-align: center;">施設基準の種類</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・経皮的僧帽弁クリップ術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体外衝撃波胆石破碎術</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・不整脈手術左心耳閉鎖術 (経カテーテル的手術によるもの)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・腹腔鏡下肝切除術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・経皮的中隔心筋焼灼術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体外衝撃波膀胱石破碎術</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・腹腔鏡下腓腫瘍摘出術</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術 (リードレスペースメーカー)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)及び 両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術 (内視鏡手術用支援機器を用いるもの)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び 両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・腹腔鏡下腓頭部腫瘍切除術 (内視鏡手術用支援機器を用いるもの)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び 植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は 皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術 (その他のもの)及び経静脈電極除去術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術 (内視鏡手術用支援機器を用いるもの)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術 (心筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型 除細動器交換術(心筋電極の場合)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・腹腔鏡下直腸切除・切断術 (内視鏡手術用支援機器を用いる場合)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術 (経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き 植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を 用いるもの)及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術 (内視鏡手術用支援機器を用いるもの)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・腎悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・補人工心臓</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・腹腔鏡下腎盂形成手術 (内視鏡手術用支援機器を用いる場合)</li> </ul>

・経皮的下肢動脈形成術	・同種死体腎移植術
・腹腔鏡下リンパ節群廓清術(後腹膜)	・生体腎移植術
・腹腔鏡下リンパ節群廓清術(傍大動脈)	・膀胱水圧拡張術及びパンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)
・腹腔鏡下リンパ節群廓清術(側方)	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下小切開副腎摘出術、腹腔鏡下小切開腎部分切除術、腹腔鏡下小切開腎摘出術、腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術、腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・内視鏡的逆流防止粘膜切除術	・尿道狭窄グラフト再建術
・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)	・人工尿道括約筋植込・置換術
・腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・精巣温存手術
・腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下仙骨腫固定術
・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	・腹腔鏡下仙骨腫固定術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)	・腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・胆管悪性腫瘍手術(臍頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下肝切除術	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
施設基準の種類	施設基準の種類
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)	・画像誘導密封小線源治療加算
・腹腔鏡下子宮癒痕部修復術	・保険医療機関間の連携による病理診断
・体外式膜型人工肺管理料	・病理診断管理加算2

・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術 (遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房摘出術)	・口腔病理診断管理加算1
・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術 (遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術)	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・輸血管管理料 I	・歯科矯正診断料
・輸血適正使用加算	・内視鏡的小腸ポリープ手術
・コーディネート体制充実加算	・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
・自己クリオプレシピテート作製術(用手法)	・膀胱頸部形成術(膀胱頸部吊上術以外)、 埋没陰茎手術、陰嚢 水腫手術(鼠径部切開によるもの)
・同種クリオプレシピテート作製術	・看護職員処遇改善評価料69
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	・外来・在宅ベースアップ評価料(I)
・胃瘻造設時嚥下機能評価加算	・歯科外来・在宅ベースアップ評価料(I)
・歯周組織再生誘導手術	・入院ベースアップ評価料108
・手術時歯根面レーザー応用加算	・
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術	・
・歯根端切除手術の注3	・
・レーザー機器加算	・
・麻酔管理料(I)	・
・麻酔管理料(II)	・
・放射線治療専任加算	・

・外来放射線治療加算	・
・高エネルギー放射線治療	・
・一回線量増加加算	・
・強度変調放射線治療 (IMRT)	・
・画像誘導放射線治療 (IGRT)	・
・定位放射線治療	・
・粒子線治療	・
・粒子線治療適応判定加算	・
・粒子線治療医学管理加算	・



## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
肝オルガノイドを用いた熱ショック蛋白Apg-2の肝脂肪化、肝発がん機序の解明	山口寛二	消化器内科	1,170,000	補○ 委 文部科学省
粘膜関連細菌叢と粘膜バリアを標的とした生活習慣病の新規治療法の開発	堅田和弘	消化器内科	1,040,000	補○ 委 文部科学省
Gut muscle axisを標的としたがんサルコペニア新規集学的治療の開発	石川剛	消化器内科	1,560,000	補○ 委 文部科学省
大腸粘膜遺伝子発現からみた潰瘍性大腸炎における再燃病態の解明	内山和彦	消化器内科	2,470,000	補○ 委 文部科学省
マルチオミクス解析を用いた粘膜関連細菌由来代謝物質を介する十二指腸癌の病態解明	土肥統	消化器内科	1,560,000	補○ 委 文部科学省
小腸カプセル内視鏡診断支援プログラムに関する研究開発	井上健	消化器内科	26,000,000	補 委○ 国立研究開発 法人日本医療 研究開発機構
腫瘍環境下での好中球細胞外トラップとNK細胞の相互作用に対する温熱療法の影響	土井俊文	消化器内科	1,560,000	補○ 委 文部科学省
PNPLA3とHSD17B13遺伝子のNAFLD病態における意義と機能解析	瀬古裕也	消化器内科	1,040,000	補○ 委 文部科学省
環状ジヌクレオチドの免疫賦活作用による新規腸管炎症治療戦略	尾松達司	消化器内科	780,000	補○ 委 文部科学省
慢性肝疾患における門脈圧のレオロジーモデルの構築とその臨床評価	石破博	消化器内科	3,900,000	補○ 委 文部科学省
ヒトNAFLDにおけるApg-2:臨床データとの相関と疾病スクリーニング法の樹立	伊藤義人	消化器内科	1,170,000	補○ 委 文部科学省
低温による消化管蠕動抑制とTRPM8チャネルおよび過敏性腸症候群の関連	杉野敏志	消化器内科	2,600,000	補○ 委 文部科学省
TRPM8チャネルとカハール介在細胞による消化管蠕動制御の検討および臨床応用	杉野敏志	消化器内科	1,044,549	補○ 委 文部科学省
十二指腸に定着した口腔内Streptococcusを標的とした機能性ディスペプシア治療薬開発	福居顕文	消化器内科	1,430,000	補○ 委 文部科学省
腸管恒常性維持機構に着目した食物アレルギー発症メカニズムの解明	春里暁人	消化器内科	0	補○ 委 文部科学省
線維化セクレトームの転写制御ネットワーク解明と心不全治療応用	星野温	循環器内科	5,850,000	補○ 委 文部科学省
AAV搭載可能な小型かつ高機能な塩基編集ツールの開発	星野温	循環器内科	3,250,000	補○ 委 文部科学省
疾患アレル特異的ゲノム編集による網膜色素変性症治療	星野温	循環器内科	26,000,000	補 委○ 国立研究開発 法人日本医療 研究開発機構
成人先天性心疾患患者の移行期医療の課題抽出と受診検査の最適化モデル開発	中西直彦	循環器内科	1,560,000	補○ 委 文部科学省
心筋必須遺伝子群を標的とした心不全病態解明と治療標的探索	木谷友哉	循環器内科	1,950,000	補○ 委 文部科学省
血液幹細胞におけるミトコンドリアDNA置換によるミトコンドリア病治療の開発	五條理志	循環器内科	5,850,000	補○ 委 文部科学省
血管内皮細胞老化の分子基盤の解明と新規老化関連疾患予防・治療法開発への応用	池田宏二	循環器内科	5,070,000	補○ 委 文部科学省
急性冠症候群患者の非責任病変における至適マネジメントの追求	若菜紀之	循環器内科	520,000	補○ 委 文部科学省
修復不全尿管上皮細胞に注目した腎うっ血に対する新規治療法の確立	草場哲郎	循環器内科	3,250,000	補○ 委 文部科学省
形質細胞様樹状細胞に着目したIgA腎症発症および治療機序の解明	桐田雄平	循環器内科	3,640,000	補○ 委 文部科学省

尿中落下細胞を用いた腎移植後ウイルス腎症の新規診断法の確立	小牧和美	循環器内科	2,730,000	補○ 委	文部科学省
肺がん低酸素環境適応機構に起因した治療抵抗性の解明と新規標的治療法開発	山田忠明	呼吸器内科	1,170,000	補○ 委	文部科学省
新たな視点で肺がん患者の療養実態に迫り、医療の課題を解明する研究	岩破将博	呼吸器内科	2,210,000	補○ 委	文部科学省
新型タバコによる気管支上皮のステムセルエイジングを標的とした革新的治療法の開発	田宮暢代	呼吸器内科	390,000	補○ 委	文部科学省
糖尿病等の生活習慣病の発症予防・重症化予防に向けた適切な健診受診後の早期介入のための研究(24FA0801)	福井道明	内分泌・糖尿病・代謝内科	10,000,000	補○ 委	厚生労働省
中鎖脂肪酸によるフレイル予防とエピジェネティック制御の解明	福井道明	内分泌・糖尿病・代謝内科	1,170,000	補○ 委	文部科学省
腸内環境・糖尿病に注目したマイクロプラスチックの組成・粒径と健康影響の解明	濱口真英	内分泌・糖尿病・代謝内科	1,950,000	補○ 委	文部科学省
人工知能によるインスリン在宅自己注射治療の患者支援システムの研究開発	濱口真英	内分泌・糖尿病・代謝内科	3,250,000	補○ 委	国立研究開発法人科学技術振興機構
塩分過剰摂取による飽和脂肪酸の吸収亢進を介した動脈硬化進展機構の解明	牛込恵美 (白石恵美)	内分泌・糖尿病・代謝内科	1,170,000	補○ 委	文部科学省
フレイル対策のためのRNA干渉による骨格筋機能回復の検討	岡田博史	内分泌・糖尿病・代謝内科	780,000	補○ 委	文部科学省
水溶性食物繊維由来の腸内代謝産物が有する腸管上皮幹細胞の機能制御の解明	中西尚子	内分泌・糖尿病・代謝内科	1,170,000	補○ 委	文部科学省
Epigenetic changes in the small intestine by Western diet	岡村拓郎	内分泌・糖尿病・代謝内科	2,730,000	補○ 委	文部科学省
1型糖尿病での自己膵島反応性T細胞の質的異常の解明	北川功幸	内分泌・糖尿病・代謝内科	520,000	補○ 委	文部科学省
水溶性食物繊維が腸内代謝産物を介して糖脂質代謝に与える影響の検討	中島華子	内分泌・糖尿病・代謝内科	1,300,000	補○ 委	文部科学省
ナノプラスチックの経口曝露がマウスの代謝と腸内環境に与える影響の検討	長谷川由佳	内分泌・糖尿病・代謝内科	2,340,000	補○ 委	文部科学省
飽和脂肪酸による骨格筋代謝障害・シグナル伝達障害発症機序の解明	千丸貴史	内分泌・糖尿病・代謝内科	1,300,000	補○ 委	文部科学省
糖尿病患者に対するウェルビーイングを目標とした継続性のある運動プログラム開発	大坂貴史	内分泌・糖尿病・代謝内科	1,690,000	補○ 委	文部科学省
バセドウ病での甲状腺浸潤自己反応性T細胞の空間トランスクリプトーム解析	畑真之介	内分泌・糖尿病・代謝内科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
全ての成熟リンパ系腫瘍の制御に向けたRSK2/AKT/S6K同時標的治療薬の開発	黒田純也	血液内科	1,170,000	補○ 委	文部科学省
造血器腫瘍におけるMDSCを標的としたmiRNAインヒビターカクテル療法の開発	志村勇司	血液内科	1,300,000	補○ 委	文部科学省
成熟B細胞性腫瘍における病態促進性インターフェロン刺激遺伝子の同定と制御戦略開発	水谷信介	血液内科	1,690,000	補○ 委	文部科学省
B細胞性リンパ腫における液-液相分離制御失調によるBCRシグナローム形成異常の解明	塚本拓	血液内科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
関節リウマチのペプチドマーカー探索研究	川人豊	膠原病・リウマチ・アレルギー科	2,080,000	補○ 委	文部科学省
スフィンゴシン-1-リン酸シグナリングを用いたANCA関連血管炎の新たな治療開発	妹尾高宏	膠原病・リウマチ・アレルギー科	1,300,000	補○ 委	文部科学省
シェーグレン症候群におけるマスト細胞の病的意義	藤井渉	膠原病・リウマチ・アレルギー科	1,820,000	補○ 委	文部科学省
ANCA関連血管炎の疾患レジストリ構築による個別化医療の推進	木田節	膠原病・リウマチ・アレルギー科	1,820,000	補○ 委	文部科学省

ラマン分光法を用いた心アミロイドーシスの病型鑑別法の開発	佐川友哉	膠原病・リウマチ・アレルギー科	1,950,000	補○委	文部科学省
Radiomics解析による大脳白質病変の病因診断、臨床転帰予測	尾原知行	脳神経内科	1,040,000	補○委	文部科学省
ロメリジン塩酸塩によるCADASIL患者に対する脳虚血イベント再発抑制	尾原知行	脳神経内科	32,500,000	補○委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
高密度表面筋電図法による運動単位分離解析を用いた重症筋無力症の新規診断法の開発	能登祐一	脳神経内科	3,250,000	補○委	文部科学省
ダウン症候群における認知症の早期発見のためのプレホスピタルツールの開発	篠本真紀子	脳神経内科	1,430,000	補○委	文部科学省
丹後地域における認知症・老化についての縦断的疫学研究(丹後生き生き長寿研究)	高橋央	脳神経内科	1,690,000	補○委	文部科学省
アレキサンダー病発症に関与する遺伝的修飾因子の探索	安田怜	脳神経内科	432,515	補○委	文部科学省
食道胃接合部癌・食道腺癌幹細胞に発現するイオン輸送体を標的とした新規治療法の開発	塩崎敦	消化器外科	1,690,000	補○委	文部科学省
血中枯渴癌抑制型microRNA投与による食道癌の次世代型抗がん核酸治療法の開発	藤原斉	消化器外科	1,820,000	補○委	文部科学省
胃癌におけるSLCO2A1発現に基づく新たな腹腔内低浸透圧化学療法の開発	小菅敏幸	消化器外科	1,560,000	補○委	文部科学省
extracellular vesiclesを利用した消化器癌腹膜播種に対する新たな治療法の開発	有田智洋	消化器外科	1,300,000	補○委	文部科学省
大腸癌における癌関連線維芽細胞のアミノ酸輸送体LAT1を標的とした治療の開発	清水浩紀	消化器外科	1,300,000	補○委	文部科学省
リキッドバイオプシーを用いた膵癌コンパニオンマーカークの開発と個別化治療への応用	今村泰輔	消化器外科	1,300,000	補○委	文部科学省
サルコペニア併存消化器癌の血中microRNAによる腫瘍進展メカニズムの解明	木内純	消化器外科	910,000	補○委	文部科学省
食道癌の進展におけるグリコカリックスの役割の解明と臨床応用	大辻英吾	消化器外科	1,430,000	補○委	文部科学省
食道癌における分泌型miRNAによる新規抗腫瘍免疫応答の抑制機構の解明と臨床応用	小松周平	消化器外科	780,000	補○委	文部科学省
消化器癌における新規癌関連遺伝子SETDB1の癌化機構の解明と臨床応用	大橋拓馬	消化器外科	1,820,000	補○委	文部科学省
ミトコンドリア内Ca2ダイナミクスに注目した大腸癌幹細胞機能解析と標的治療の開発	工藤道弘	消化器外科	1,690,000	補○委	文部科学省
容積活性化陰イオンチャネルを標的とした大腸癌播種性転移に対する低浸透圧療法の開発	内藤慶	消化器外科	1,690,000	補○委	文部科学省
患者の体内で再生する自家結合組織代用血管の臨床応用の適応拡大をめざした多角的な研究	神田圭一	心臓血管外科	3,900,000	補○委	文部科学省
脱細胞化異種由来セルフフリー・デバイスを核に患者体内で再生される代用血管の開発	神田圭一	心臓血管外科	2,080,000	補○委	文部科学省
生体内組織工学による結合組織代用血管他家移植に必要な短時間脱細胞処理技術の開発	権代竜郎	心臓血管外科	1,560,000	補○委	文部科学省
組織工学代用血管を用いた小児心疾患への肺動脈拡大術の臨床応用推進及び多角的展開	山南将志	心臓血管外科	4,680,000	補○委	文部科学省
高圧処理技術にて殺細胞処理した皮膚組織を自己体内再生型血管移植片として用いる試み	山南将志	心臓血管外科	1,950,000	補○委	文部科学省
原発性肺癌におけるSpreadThroughAirSpaceの分子病態解明	井上匡美	呼吸器外科	2,080,000	補○委	文部科学省
初代培養スフェロイドを用いた大腸癌肺転移気腔内伸展の病態解明	下村雅律	呼吸器外科	1,040,000	補○委	文部科学省
WHO分類を考慮した胸腺腫に対する免疫療法の確立	古谷竜男	呼吸器外科	1,430,000	補○委	文部科学省

多重免疫染色による悪性胸腺上皮性腫瘍の新規biomarkerの探索	石原駿太	呼吸器外科	1,560,000	補○ 委	文部科学省
光線力学診断による乳癌蛍光細胞診断技術の開発	森田翠	内分泌・乳腺外科	910,000	補○ 委	文部科学省
質量分析イメージングを基軸とした乳がん組織の不均一性と薬剤感受性の解明	加藤千翔	内分泌・乳腺外科	1,560,000	補○ 委	文部科学省
膠芽腫オルガノイドを用いたネオアンチゲン免疫療法の基盤的研究	高橋義信	脳神経外科	2,210,000	補○ 委	文部科学省
オプトジェネティクス導入神経幹細胞を用いた各前駆細胞の系統別再生機能評価	梅林大督	脳神経外科	455,000	補○ 委	文部科学省
Hedgehog経路の転写因子GLI2を標的とした膠芽腫新規治療法の開発	谷川成佑	脳神経外科	1,300,000	補○ 委	文部科学省
視覚芸術(漫画)を用いた医療イノベーション戦略研究	荻田庄吾	脳神経外科	1,040,000	補○ 委	文部科学省
骨肉腫に対するCD81抗体療法の開発ーエクソソームに着目した転移抑制ー	白井寿治	整形外科	2,210,000	補○ 委	文部科学省
ヒト脂肪組織由来幹細胞と多血小板血漿を併用した新たな末梢神経再生法の開発	小田良	整形外科	1,040,000	補○ 委	文部科学省
骨粗鬆症性椎体骨折に対する骨芽細胞とマクロファージの誘導による骨癒合促進法の開発	長江将輝	整形外科	1,170,000	補○ 委	文部科学省
direct re-programming法による人工骨膜の開発ー多種細胞環境と血管新生を目指してー	寺内竜	整形外科	1,300,000	補○ 委	文部科学省
生体内自己溶解性金属インプラントの開発	岡佳伸	整形外科	1,300,000	補○ 委	文部科学省
低酸素環境を用いた新規RAサルコペニア運動療法の確立	井上敦夫	整形外科	1,300,000	補○ 委	文部科学省
負荷強度に応じた椎間板のメカノバイオリジー変容機構の解明	外村仁	整形外科	650,000	補○ 委	文部科学省
磁気共鳴画像法を用いた普遍的筋質画像診断法の開発と有用性の検討	祐成毅	整形外科	780,000	補○ 委	文部科学省
磁場測定と深層学習を用いたiPS細胞由来心筋細胞の電気生理学的評価	吉田隆司	整形外科	910,000	補○ 委	文部科学省
direct re-programingを用いた軟骨肉腫の新規治療法の開拓	下村征史	整形外科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
虚弱な高齢者の新たなリハビリテーション環境の開発-軽度高気圧高酸素-	森原徹	整形外科	3,510,000	補○ 委	文部科学省
骨格筋電気刺激とFOXO発現抑制の融合による革新的サルコペニア治療法の開発	遠山将吾	整形外科	2,210,000	補○ 委	文部科学省
血液検査による早期ロコモの推測システムの構築～健康寿命の延伸を目指して～	後藤毅	整形外科	1,300,000	補○ 委	文部科学省
骨肉腫に対する新規分子標的併用療法の開発	村田博昭	整形外科	1,300,000	補○ 委	文部科学省
子宮体癌におけるゲノム情報に基づいた新規内分泌治療法の開発	寄木香織	産婦人科	2,470,000	補○ 委	文部科学省
子宮内膜症患者の体脂肪・骨格筋分布と酸化ストレスおよびインスリン抵抗性との関連	前田 英子	産婦人科	1,300,000	補○ 委	文部科学省
月経周期における性ホルモン変動が子宮内膜症患者の免疫・炎症にもたらす影響	田中佑輝子	産婦人科	1,820,000	補○ 委	文部科学省
がん微小環境の経時的動的解析による子宮頸癌個別化治療戦略の基盤構築	古株哲也	産婦人科	1,690,000	補○ 委	文部科学省
NAD代謝サイクルに基づく新規子宮内膜症治療法の確立	片岡恒	産婦人科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
ゲノム情報とプロゲステロン応答能を指標とした子宮内膜症個別化治療の開発	垂水洋輔	産婦人科	1,040,000	補○ 委	文部科学省
外科的閉経による動脈硬化発症の分子基盤解明と至適な予防的治療法の確立	田原菜奈美	産婦人科	1,430,000	補○ 委	文部科学省

Molecular detection of intrauterine microbial colonization in women with adenomyosis and occurrence of chronic	カーンカレク	産婦人科	1,560,000	補○ 委	文部科学省
パーソナルヘルスケアレコードを用いた子宮内膜症患者の管理と新たな疫学研究の試み	小芝明美	産婦人科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
ERβをターゲットとした新たな子宮内膜症治療薬の分子基盤の確立	高岡幸	産婦人科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
眼球提供・あっせんにおける医療の標準化に資する研究	外園千恵	眼科	4,576,000	補○ 委	厚生労働省
眼合併症型SJS/TEN発症における微生物関与の検証と病態解明ならびに発症予測	外園千恵	眼科	5,460,000	補○ 委	文部科学省
SJS/TEN眼後遺症による失明克服に向けた戦略的研究	外園千恵	眼科	13,000,000	補 委○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
invivo角膜内皮細胞制御法の開発を目指した細胞微小環境の統合的理解の構築	上野盛夫	眼科	780,000	補○ 委	文部科学省
長時間の近方視が前眼部形状におよぼす影響と近視進行の関係	稗田牧	眼科	1,950,000	補○ 委	文部科学省
マルチオミクスによる眼瞼悪性腫瘍の発症及び転移機序の解明	渡辺彰英	眼科	1,690,000	補○ 委	文部科学省
日本人角膜ジストロフィにおける遺伝子変異解析と全容の解明	福岡秀記	眼科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
角化と非角化を制御する分子メカニズム機構の解明	北澤耕司	眼科	1,560,000	補○ 委	文部科学省
難治性角膜疾患に対するエクソソーム含有液体人工角膜の臨床応用	北澤耕司	眼科	1,000,000	補 委○	日本学術振興会
視機能別に行う学習環境整備が普通学級に在籍するロービジョン児に与える影響	鎌田さや花	眼科	1,170,000	補○ 委	文部科学省
羊膜円孔の組織修復のメカニズムの解明、及び羊膜を用いた治療の可能性	田中寛	眼科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
房水流出路におけるGDF15の眼圧変動への関与の解明	三重野洋喜	眼科	1,560,000	補○ 委	文部科学省
角膜内皮細胞のミトコンドリアによる細胞老化か細胞死の運命決定メカニズムの解明	沼幸作	眼科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
培養ヒト角膜内皮細胞注入療法から発するリバーstransレーションリサーチ	木下茂	共同研究講座 感覚器未来医療学講座	6,890,000	補○ 委	文部科学省
自然免疫による眼表面炎症制御機構におけるADARの役割の解明と新規治療法の開発	上田真由美	眼科	1,820,000	補○ 委	文部科学省
培養ヒト角膜内皮細胞の移植先微小環境への適応能に関する研究	戸田宗豊	眼科	2,340,000	補○ 委	文部科学省
視野障害進行速度に関わる遺伝子バリエーションと臨床因子の探索	池田陽子	眼科	1,560,000	補○ 委	文部科学省
角膜及び隅角組織における眼前房液性因子による細胞変性メカニズムの解明	山下智子	眼科	1,820,000	補○ 委	文部科学省
角結膜上皮におけるバリア機能増強メカニズムの解明	伴由利子	眼科	1,560,000	補○ 委	文部科学省
加齢と常在細菌叢の変化によるマイボーム腺脂質代謝制御機構の変調の解明	鈴木智	眼科	1,300,000	補○ 委	文部科学省
人工コラーゲン様ポリペプチドを用いた新規的黄斑円孔治療の最適化に向けた基礎的研究	小嶋健太郎	眼科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
中心性漿液性脈絡網膜症固有の脈絡膜異常に係る分子病態解明と適正医療確立	寺尾信宏	眼科	910,000	補○ 委	文部科学省
人工コラーゲン様ポリペプチドシートによる網膜再生の解明と新規治療法の開発	新開陽一郎	眼科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
乳房外パジェット病におけるがん微小環境の解明	浅井純	皮膚科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
Siglecを介した痒みの調節機構の解明とそれに基づく新規治療法の開発	峠岡理沙	皮膚科	1,560,000	補○ 委	文部科学省

皮膚付属器悪性腫瘍におけるがんオルガノイドの樹立	在田貴裕	皮膚科	0	補○委	文部科学省
円形脱毛症におけるIKZF1の免疫制御機構の解明ならびに新規抗炎症治療薬への応用	荒川幸保	皮膚科	910,000	補○委	文部科学省
腎移植後mTOR阻害薬の至適モニタリングを目指した前臨床実験でのバイオマーカー探索	奥見雅由	泌尿器科	1,820,000	補○委	文部科学省
三次元画像による排尿動態解析法の開発	内藤泰行	泌尿器科	1,170,000	補○委	文部科学省
抗HLA抗体強陽性患者の多遺伝子改変ブタリンパ球への異種免疫反応の評価	宮下雅重	泌尿器科	1,820,000	補○委	文部科学省
膀胱癌組織内microbiomeに着目したγδT細胞癌免疫療法responderの探索的研究	清水輝記	泌尿器科	2,210,000	補○委	文部科学省
深層学習AIを用いた高速・高精度・高信頼性尿細胞診診断支援システムの実用化	金子正大	泌尿器科	1,560,000	補○委	文部科学省
縫合を要しない尿路再建術の開発と検討	山田剛司	泌尿器科	1,300,000	補○委	文部科学省
重症声帯癬痕に対するハイブリッド再生医療の確立のための基礎的研究	平野滋	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,820,000	補○委	文部科学省
多重免疫染色を用いた頭頸部癌不均一性の空間・時間的モニタリング法の最適化	辻川敬裕	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,170,000	補○委	文部科学省
ヒト蝸牛オルガノイドを用いた先天性CMV感染モデル作成と難聴の病態解明	中村高志	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	2,080,000	補○委	文部科学省
声帯癬痕に対する選択的エストロゲン受容体修飾薬の作用機序の解明と新規治療法の開発	椋代茂之	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,170,000	補○委	文部科学省
甲状腺癌ゲノム情報と免疫的癌微小環境に基づく個別化医療への探索	佐分利純代	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,429,967	補○委	文部科学省
多重免疫染色-電子相関顕微鏡法を用いたシスプラチン難聴における蝸牛免疫応答の解明	二之湯弦	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,950,000	補○委	文部科学省
嚥下障害モデル動物を用いた嚥下関連筋への酸化ストレスの関与と抗酸化治療効果の解明	橋本慶子	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,300,000	補○委	文部科学省
癌微小環境マッピングに基づく甲状腺濾胞癌の被膜浸潤機構の解明	大村学	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,298,571	補○委	文部科学省
痙攣性発声障害の病態解明に迫る脳幹における発声中枢調整機構の解明	金子真美	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	910,000	補○委	文部科学省
がん微小環境解析による頭頸部がん複合・順次治療の最適化	光田順一	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	910,000	補○委	文部科学省
身体症状症関連群に遠隔・集団認知行動療法は効くか？-VRを用いた探求-	富永敏行	精神科・心療内科	1,170,000	補○委	文部科学省
精神療法を取り入れた不妊治療患者に対する家族形成支援プログラムの開発	中前貴	精神科・心療内科	1,300,000	補○委	文部科学省
高齢者介護施設入所者における薬物療法適正化とその効果に関する臨床疫学的研究	綾仁信貴	精神科・心療内科	1,300,000	補○委	文部科学省
電気けいれん療法がもたらす認知的柔軟性:脳画像変化からメカニズムを解明する	渡辺杏里	精神科・心療内科	780,000	補○委	文部科学省
治療選択におけるwell-beingな意思決定に寄与する要因の包括的検討	加藤佑佳	精神科・心療内科	1,560,000	補○委	文部科学省
身体治療目的入院中の統合失調症患者の精神症状悪化予測スコアリングモデル作成と検証	松本佳大	精神科・心療内科	1,820,000	補○委	文部科学省
発達障害合併強迫症患者の治療法開発	阿部能成	精神科・心療内科	650,000	補○委	文部科学省
認知症初期集中支援チームを利用した軽度行動障害への多職種連携早期介入モデルの構築	松岡照之	精神科・心療内科	390,000	補○委	文部科学省
篩照射と画像融合技術を用いた新しいBNCT治療技術の開発	山崎秀哉	放射線科	780,000	補○委	文部科学省
組織内照射の標準化にむけた人工知能に基づく診療サポートシステムの開発	鈴木弦	放射線科	1,950,000	補○委	文部科学省

脳MRI計測による活動—血流—温度の局所領域相関に関する研究	酒井晃二	放射線科	780,000	補○ 委	文部科学省
短縮拡散強調像の新たなパラメータを用いた非造影MRIによる乳腺病変診断法の検討	後藤眞理子	放射線科	520,000	補○ 委	文部科学省
低出生体重児の発達予測における放射線画像バイオマーカーの開発	赤澤健太郎	放射線科	910,000	補○ 委	文部科学省
画像診断AIの開発に必要な教師データ精製に関する探索的研究	高橋健	放射線科	910,000	補○ 委	文部科学省
Triple networkの細分化:脳内ネットワークを評価する新しいフレームワーク	渡邊啓太	放射線科	3,770,000	補○ 委	文部科学省
高線量率小線源治療におけるモンテカルロ法を用いた線量分布検証システムの開発	武中正	放射線科	1,170,000	補○ 委	文部科学省
子宮内膜症が子宮筋層にもたらす影響: MRIによる灌流、拡散、蠕動、硬度の検討	高畑暁子	放射線科	650,000	補○ 委	文部科学省
肝臓がんに対する機能的画像を用いたスキミング陽子線治療戦略最適化に向けた検討	尾方俊至	放射線科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
PET/CT 動態撮像を活用した新しい診断手法の開発	小谷知也	放射線科	1,560,000	補○ 委	文部科学省
画像誘導穿刺技術用ARトレーニングデバイスの開発	増井浩二	放射線科	2,080,000	補○ 委	文部科学省
低出生体重児の小脳損傷の頻度および神経発達学的予後との関連の調査	西本雅和	放射線科	2,470,000	補○ 委	文部科学省
高い抗腫瘍効果と晩期副作用軽減を同時に達成する放射線修飾剤併用放射線治療法の開発	長澤慎介	放射線科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
至適NBCA算出ソフトウェアとNBCA注入血管練習モデルによる血管塞栓術習得システム	林奈津子	放射線科	1,560,000	補○ 委	文部科学省
一次造血系と心臓血管系を連結する内皮ネットワーク形成における細胞動態の解明	佐波理恵	放射線科	2,730,000	補○ 委	文部科学省
COVID-19に対するスパイク蛋白 CpG-ODN経鼻投与ワクチンの開発	佐和貞治	麻酔科	4,160,000	補○ 委	文部科学省
一次知覚神経の細胞内に存在する自然免疫機構に着目した慢性疼痛の機序解明	天谷文昌	麻酔科	4,810,000	補○ 委	文部科学省
低温/凍結保存血小板製剤の安全な臨床応用への展開	石井祥代	麻酔科	3,640,000	補○ 委	文部科学省
心臓外科手術に伴う全身炎症応答の制御困難メカニズムの解明	飯田淳	麻酔科	2,860,000	補○ 委	文部科学省
粘膜投与技術を応用した新型コロナ次世代高付加価値型ワクチンの実用化戦略	木下真央	麻酔科	1,560,000	補○ 委	文部科学省
一次知覚神経のインフラマソームに着目した術後痛のメカニズム解析	山北俊介	麻酔科	1,950,000	補○ 委	文部科学省
モルヒネ誘発慢性術後痛の機序解明と末梢型MOR拮抗薬による予防効果の検証	堀井靖彦	麻酔科	2,860,000	補○ 委	文部科学省
ARDSとCOVID-19患者のELF/サイトカイン比と免疫抑制薬の治療効果に関する研究	須藤和樹	麻酔科	1,950,000	補○ 委	文部科学省
活性型第XI因子拮抗薬が線溶反応に及ぼす影響の解明	吉井龍吾	麻酔科	1,040,000	補○ 委	文部科学省
活性型第XI因子拮抗薬の拮抗治療および凝固モニタリング法の確立	小川 覚	疼痛・緩和ケア科	390,000	補○ 委	文部科学省

神経芽腫に対する間葉系間質細胞を用いた遺伝子細胞治療法の開発	家原知子	小児科	5,460,000	補○ 委	文部科学省
次世代プロテオミクスを用いたCRP陰性若年性特発性関節炎のバイオマーカー探索	秋岡親司	小児科	1,560,000	補○ 委	文部科学省
横紋筋肉腫に対する脂質代謝制御に基づく新たな治療戦略の開発	土屋邦彦	小児科	1,690,000	補○ 委	文部科学省
乳児急性リンパ性白血病に対するFLT3とCD19を標的としたCAR-T療法の開発	大曾根真也	小児科	1,040,000	補○ 委	文部科学省
胞巣型横紋筋肉腫におけるPLAGL1-FOXO1融合遺伝子の機能解析	宮地充	小児科	1,300,000	補○ 委	文部科学省
BMPシグナルに着目した脊髄性筋萎縮症に対するSMN非依存的治療の探索	戸澤雄紀	小児科	1,551,996	補○ 委	文部科学省
低酸素応答因子HIF-1に着目した、若年性特発性関節炎に対する新規治療標的の探索	大内一孝	小児科	650,000	補○ 委	文部科学省
WT1プロモーター制御性ウイルスによる小児悪性固形腫瘍に対する新たな治療戦略	吉田秀樹	小児科	1,300,000	補○ 委	文部科学省
小児肥満と脂質メディエーターの関連性に関する調査研究	杉本哲	小児科	520,000	補○ 委	文部科学省
新たな呼吸モニタリング法を用いた早産児人工呼吸器関連脳損傷の病態解明	瑞木匡	小児科	2,340,000	補○ 委	文部科学省
京都北部で勤務する、お産に関わる全ての医療従事者が新生児蘇生法を獲得するための試み	瑞木匡	小児科	220,000	補○ 委	一般社団法人 京都知恵産業 創造の森
サウンドスペクトル分析を用いた新生児呼吸モニタリング法の開発	瑞木匡	小児科	1,300,000	補○ 委	京都市
Angiotensin1-7による褐色脂肪組織の活性化機序を基盤とした小児肥満治療満薬の探索	森元英周	小児科	1,950,000	補○ 委	文部科学省
DIZEによるACE2活性化の機序を利用した小児の新規肥満薬の開発を目指して	河辺泰宏	小児科	1,560,000	補○ 委	文部科学省
CAR-T細胞の免疫疲弊を回避できる分子標的薬併用療法の開発	富田晃正	小児科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
FUS-ERG陽性の難治性小児急性骨髄性白血病の病態解明とマウスモデル作成	眞弓あずさ	小児科	1,560,000	補○ 委	文部科学省
CAR-T細胞とHMG-CoA還元酵素阻害薬(スタチン)の新規併用療法の開発	末松正也	小児科	1,560,000	補○ 委	文部科学省
横紋筋肉腫に対する新規遺伝子治療の開発	菊地頭	小児科	1,560,000	補○ 委	文部科学省
遺伝子改変肥満マウスにおけるデスアシルグレリンの抗肥満作用の機序解明	福原正太	小児科	780,000	補○ 委	文部科学省
エリスロポエチンによる褐色脂肪細胞の活性化機構の解明を介した新規肥満治療の探索	宮垣知史	小児科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
Direct conversionによる誘導腱細胞を用いた横隔膜筋腱複合体MTCシートの開発	小野滋	小児外科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
骨肉腫肺転移に対するGD2-MSCsによる新規細胞免疫治療開発	文野誠久	小児外科	1,560,000	補○ 委	文部科学省
ダイレクトリプログラミング技術を応用した難治性小児気道疾患に対する気道再建法開発	金聖和	小児外科	910,000	補○ 委	文部科学省
横隔膜ヘルニアに対するダイレクトリプログラミング骨格筋細胞シートの開発	高山勝平	小児外科	1,300,000	補○ 委	文部科学省
神経芽腫骨髄転移に対するGD2-MSCsによる新規細胞免疫治療	井口雅史	小児外科	1,300,000	補○ 委	文部科学省
患者体内で作成する自家結合組織シートの小児心臓弁形成術への応用と専用埋入体の開発	藤田 周平	小児心臓血管外科	1,300,000	補○ 委	文部科学省
高齢者の活動が健康寿命に与える影響ー京丹後長寿コホート研究からー	三上靖夫	リハビリテーション科	910,000	補○ 委	文部科学省
関節リウマチのサルコペニア治療法の確立;骨格筋増量法のパラダイムシフトを目指して	菱川法和	リハビリテーション科	2,860,000	補○ 委	文部科学省

国際共同 非侵襲的頸動・静脈血流モニタリングを活用した心肺蘇生手法の革新	松山 匡	救急医療科	15,600,000	補○ 委	文部科学省
生理学的指標を用いた心停止患者における蘇生循環メカニズムと効果的指標の研究	松山 匡	救急医療科	1,690,000	補○ 委	文部科学省
ポストコロナ時代における海外由来薬剤耐性菌の分子疫学解析及び効果的感染対策の確立	貫井 陽子	感染症科	1,170,000	補○ 委	文部科学省
肉腫様成分を伴うがんの臓器横断的な概念確立に向けた病理学的検討	小嶋基寛	病院病理部	1,170,000	補○ 委	文部科学省
口腔カンジダ症に対する革新的セラノステイクスシステムの開発	金村成智	歯科	1,040,000	補○ 委	文部科学省
歯周病菌外膜小胞に着目したアルツハイマー病の次世代型リキッドバイオプシーの開発	山本俊郎	歯科	1,690,000	補○ 委	文部科学省
ラマン分光法を用いた歯周病菌によるアルツハイマー病発症の分子病態の解明	足立圭司	歯科	1,560,000	補○ 委	文部科学省
歯科エックス線画像診断AIと質問紙調査を併用した骨粗鬆症スクリーニングの有用性評価	小野龍太郎	歯科	1,671,137	補○ 委	文部科学省
1次元ラマンバーコードを用いたCOVID-19および真菌感染症の迅速診断	足立哲也	歯科	1,560,000	補○ 委	文部科学省
長寿地域の高齢者における口腔機能および口腔内と腸内フローラの検討	滝沢茂太	歯科	1,040,000	補○ 委	文部科学省

計224計

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Seya M	消化器内科	Short-and long-term outcomes of endoscopic submucosal dissection and laparoscopic and endoscopic cooperative surgery for superficial non-ampullary duodenal epithelial tumors	Surg Endosc 2024 Apr;38(4):1784-1790.	Original Article
2	Fukui H	消化器内科	Clinical outcomes of the over-the-scope clip closure after duodenal endoscopic submucosal dissection: a multicenter retrospective study	J Gastroenterol Hepatol 2024 Apr;39(4):725-732.	Original Article
3	Iwai N	消化器内科	Linked Color Imaging with Light-Emitting Diode Light Enhances the Visibility of Gastric Neoplasm: A Prospective, Multicenter, Comparative Trial	Dig Dis Sci. 2025 Feb;70(2):794-801.	Original Article
4	Dohi O	消化器内科	Endoscopic detection and diagnosis of gastric cancer using image-enhanced endoscopy: A systematic review and meta-analysis	DEN Open. 2024 Aug 13;5(1):e418	Review
5	Seko Y, Yamaguchi K, Shima T, et al.	消化器内科	Differential Effects of Genetic Polymorphism on Comorbid Disease in Metabolic Dysfunction-Associated Steatotic Liver Disease	Clin Gastroenterol Hepatol. 2024 Jul;22(7):1436-1443.	Original Article
6	Seko Y, Yamaguchi K, Shima T, et al.	消化器内科	Prognostic performance of a two-step method using the Fibro-Scope system for metabolic dysfunction-associated steatotic liver disease.	Hepatol Res. 2024 Oct 15. オンライン	Original Article
7	Uchiyama K, Takagi T, Mizushima K, et al.	消化器内科	Mucosal cytokine expression associated with deep endoscopic mucosal healing in ulcerative colitis.	J Crohns Colitis. 2025 Mar 5;19(3):jjae158	Original Article
8	Uchiyama K, Ando T, Kishimoto E, et al.	消化器内科	Correlation of gastrointestinal symptom rating scale and frequency scale for the symptoms of gastroesophageal reflux disease with endoscopic findings.	Scand J Gastroenterol. 2024 Sep 20:1-9 2024 Nov;59(11):1220-1228.	Original Article
9	Takata T, Nakamura A, Yasuda H, et al.	消化器内科	Pathophysiological Implications of Protein Lactylation in Pancreatic Epithelial Tumors	Acta Histochem Cytochem. 2024 Apr 25; 57(2): 57-66.	Original Article
10	Sawai Y, Hayakawa M, Yasuda H, et al.	消化器内科	Oleic acid enhances the proliferation of gallbladder cancer cells via the GPR120/ERK pathway	Biochem Biophys Res Commun. 2025 Mar 25;754:151530. (オンライン)	Original Article
11	Hiroshi Ishiba	消化器内科	Accuracy of the type IV collagen 7S versus Enhanced liver fibrosis score for diagnosing fibrosis in patients with metabolic dysfunction-associated steatotic liver disease	Hepatology communications 2025, 9. 2024 Dec 11;9(1):e0563.	Original Article
12	Hiroshi Ishiba	消化器内科	Prediction of advanced fibrosis in metabolic dysfunction-associated steatotic liver disease by type IV collagen 7S	Gastro Hep Advance 2025,4 Mar 28;4(7):100668.	Original Article
13	Moriguchi M	消化器内科	Safety/efficacy of atezolizumab + bevacizumab during anti-platelet/anticoagulation therapy in unresectable hepatocellular carcinoma	Liver Int. 2024 Aug;44(8):1751-1761	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
14	Moriguchi M	消化器内科	Evolution of Systemic Treatment for Hepatocellular Carcinoma: Changing Treatment Strategies and Concepts	Cancers.2024 Jun 28;16(13):2387	Review
15	Matsuki A, Watanabe Y, Hashimoto S, et al.	循環器内科	Cathepsin L prevents the accumulation of alpha-synuclein fibrils in the cell	Genes Cells. 2024 Apr;29(4):328-336	Original Article
16	Yamazaki E, Ikeda K, Urata R,	循環器内科	Endothelial CLEC-1b plays a protective role against cancer hematogenous metastasis	Biochem Biophys Res Commun. 2024 May 14;708:149819	Original Article
17	Kobara M, Inaba T, Matoba S,	循環器内科	Discrepant serum creatinine concentrations caused by paraprotein interference preceding diagnosis of monoclonal gammopathy of undetermined significance	BMJ Case Rep. 2024 Apr 25;17(4):e256242.	Case report
18	Tomura N, Shiraishi H, Makino M, et al.	循環器内科	Pitfalls and tips for lumenless lead extraction inserted deep within the ventricular septum	Clin Case Rep. 2024 Apr 24;12(5):e8718	Case report
19	Nishi M, Nagamitsu R, Matoba S	循環器内科	Association between daily step counts and healthy life years: a national cross-sectional study in Japan	BMJ Health Care Inform. 2024 Apr 30;31(1):e101051	Original Article
20	Matsuoka T, Oya N, Imai A, et al.	循環器内科	Intracranial calcifications associated with factors related and unrelated to atherosclerosis in older people: A community dwelling cohort study	Heliyon. 2024 Apr 23;10(9):e30011	Original Article
21	Maruyama N, Ogata T, Kasahara T, et al.	循環器内科	Loss of Cavin-2 destabilizes PTEN and enhances Akt signaling pathway in cardiomyocytes	Cardiovasc Res. 2024 Nov 5;120(13):1562-1576.	Original Article
22	Goto D, Yanishi K, Ozawa T, et al.	循環器内科	Comparison of Endovascular Therapy and Open Surgical Revascularization in Patients With Acute Superior Mesenteric Artery Occlusion: A Large-Scale Analysis Based on the JROAD-DPC Database	J Am Heart Assoc. 2024 Jun 18;13(12):e035017	Original Article
23	Nishi M, Nakamura T, Yanishi K, et al.	循環器内科	AMI-Kyoto Multi-Center Risk Study Group. Adaptability of prognostic prediction models for patients with acute coronary syndrome during the COVID-19 pandemic	BMJ Health Care Inform. 2024 Jul 1;31(1):e101074	Original Article
24	Fujimoto T, Zen K, Kataoka E, et al.	循環器内科	Balloon aortic valvuloplasty bridge to transcatheter aortic valve replacement is associated with worse in-hospital mortality	Int J Cardiol. 2024 Oct 15;413:132348.	Original Article
25	Harada Y, Makino M, Nakao R, et al.	循環器内科	An Autopsy Case of Severe COVID-19 Pneumonia Complicated by Intrapulmonary Thrombosis in Myelodysplastic/Myeloproliferative Neoplasm With Ring Sideroblasts and Thrombocytosis	Cureus. 2024 Jun 20;16(6):e62790	Case report
26	Ozawa T, Yanishi K, Fujioka A, et al.	循環器内科	Comparison of Clinical Outcomes in Patients with Acute Lower Limb Ischaemia Undergoing Endovascular Therapy and Open Surgical Revascularisation: A Large Scale Analysis in Japan	Eur J Vasc Endovasc Surg. 2024 Dec;68(6):748-756.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
27	Naito Y, Yasuda T, Kitae H, et al.	循環器内科	A cross-sectional study on the relationship between nutrient/food intake and gut microbiota in frailty among older community residents: The Kyotango study	J Clin Biochem Nutr. 2024 Sep;75(2):161-173	Original Article
28	Yanagiuchi T, Fukai K, Sogabe K, et al.	循環器内科	Predictors of recurrent restenosis after repeat drug-coated balloon therapy for drug-coated balloon restenosis in femoropopliteal lesions: Results of the RECURRENCE study	Catheter Cardiovasc Interv. 2024 Nov;104(6):1241-1250.	Original Article
29	Shimoo S, Senoo K, Okawa T, et al.	循環器内科	Using Machine Learning to Predict the Duration of Atrial Fibrillation: Model Development and Validation	JMIR Med Inform. 2024 Nov 22;12:e63795	Original Article
30	Munakata J, Senoo K, Nakata M, et al.	循環器内科	Impact of longitudinal changes in serum uric acid levels and weight gain on new-onset atrial fibrillation-The Nishimura Health Survey: a retrospective cohort study	BMJ Open. 2024 Nov 27;14(11):e091175	Original Article
31	Sano A, Sugimoto T, Iwasaki T, et al.	循環器内科	Pre-distance assessment from radial artery to lower extremity arterial lesion	Int J Cardiovasc Imaging. 2025 Mar;41(3):467-475	Original Article
32	Fukui K, Koide M, Takamatsu K, et al.	循環器内科	Clinical Outcomes of Percutaneous Coronary Intervention Using Drug-Coated Balloons for De Novo Coronary Lesions With Eruptive Calcified Nodules as Detected by Optical Coherence Tomography.	Circ J. 2025 Feb 25;89(3):303-311.	Original Article
33	Kawamata H, Yanishi K, Yoshimura J, et al.	循環器内科	Prognostic Factors After Bone Marrow-Derived Mononuclear Cell Implantation in No-Option Chronic Limb-Threatening Ischemia Patients with Atherosclerotic Lower Extremity Artery Disease.	Int Heart J. 2025;66(1):96-105(2025 年1月号)	Original Article
34	Gojo S, Kami D, Sano A, et al.	循環器内科	Sephin1 suppresses ER stress-induced cell death by inhibiting the formation of PP2A holoenzyme.	Cell Death Dis. 2025 Feb 19;16(1):117.	Original Article
35	Hohri Y, Zen K, Kawajiri H, et al.	循環器内科	A comparative study on iliofemoral artery calcification distribution in alternative TAVR approaches	Indian J Thorac Cardiovasc Surg. 2025 Mar;41(3):272-280	Original Article
36	Nakata T, Kirita Y, Umehara M, et al.	腎臓内科	Injured tubular epithelia-derived CCN1 promotes the mobilization of fibroblasts toward injury sites after kidney injury	iScience. 2025 Mar 7;28(4):112176	Original Article
37	Ito T, Suzuki T, Sakai Y, et al.	循環器内科	Engineered ACE2 decoy in dry powder form for inhalation: A novel therapy for SARS-CoV-2 variants	Mol Ther Methods Clin Dev. 2025 Mar 31;33(2):101459	Original Article
38	Kotani A, Watanabe S, Kato T, et al.	循環器内科	Angiogenesis Using Recombinant Basic Fibroblast Growth Factor With Atelocollagen in Normal and Hind Limb Ischemia Models.	Circ Rep. 2025 Mar 15;7(5):372-378	Original Article
39	Katayama Y, Yamada T, Sawada R et al.	呼吸器内科	Prospective Observational Study of Ramucirumab Plus Docetaxel After Combined Chemioimmunotherapy in Patients With Non-Small-Cell Lung Cancer.	Oncologist. 29(5):e681- e689. 2024 May	Original Article
40	Ishida M, Iwasaku M, Doi T et al.	呼吸器内科	Nationwide data from comprehensive genomic profiling assays for detecting driver oncogenes in non-small cell lung cancer.	Cancer Sci.115(5):1656- 1664.2024 May	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
41	Onoi K, Yamada T, Morimoto K et al.	呼吸器内科	Efficacy and Safety of Docetaxel plus Ramucirumab for Patients with Pretreated Advanced or Recurrent Non-small Cell Lung Cancer: Focus on Older Patients.	Target Oncol. 19(3):411-421. 2024 May	Original Article
42	Nishioka N, Kawachi H, Yamada T et al.	呼吸器内科	Unraveling the influence of TTF-1 expression on immunotherapy outcomes in PD-L1-high non-squamous NSCLC: a retrospective multicenter study.	Front Immunol. 15:1399889. 2024 Jul	Original Article
43	Tachibana Y, Morimoto K, Yamada T et al.	呼吸器内科	Depth of response and treatment outcomes of immune checkpoint inhibitor-based therapy in patients with advanced non-small cell lung cancer and high PD-L1 expression: An exploratory analysis of retrospective multicenter cohort.	Invest New Drugs. 2024 Oct	Original Article
44	Kataoka N, Katayama Y, Yamada T et al.	呼吸器内科	CYFRA 21-1 predicts efficacy of combined chemoimmunotherapy in patients with advanced non-small cell lung cancer: a prospective observational study.	Transl Lung Cancer Res. 13(8):1929-1937. 2024 Aug	Original Article
45	Kuno H, Nishioka N, Yamada T et al.	呼吸器内科	The Significance of Longitudinal Psoas Muscle Loss in Predicting the Maintenance Efficacy of Durvalumab Treatment Following Concurrent Chemoradiotherapy in Patients with Non-Small Cell Lung Cancer: A Retrospective Study.	Cancers (Basel). 16(17):3037.2024 Aug	Original Article
46	Morimoto K, Hamashima R, Yamada T et al.	呼吸器内科	Clinical significance of chronic pulmonary aspergillosis in lung cancer patients undergoing anticancer drug therapy.	Thorac Cancer. 15(26):1882-1888. 2024 Sep	Original Article
47	Hata T, Yamada T, Goto Y et al.	呼吸器内科	Comparative analysis of first-line treatment in NSCLC including unresectable stage III (IIIB/IIIC) and stage IV with low PD-L1 expression: Clinical trial eligible versus ineligible patients	Lung Cancer. 2025 Feb;200:108104	Original Article
48	Morimoto K, Yamada T, Furuya N et al.	呼吸器内科	Exploration of clinical Biomarkers for guiding treatment selection between chemotherapy and combination therapy with Atezolizumab, Bevacizumab, Carboplatin, and Paclitaxel in EGFR-Mutant NSCLC patients after EGFR-TKI Therapy: The SPIRAL-STEP study	Lung Cancer. 2025 Mar;201:108447	Original Article
49	Fukui M, Chihara Y, Takahashi Y et al.	呼吸器内科	Biological Agents for Treating Atezolizumab-Induced Psoriasis in Small-Cell Lung Cancer:	A Case Report Cureus 30;16(5):e61395.2024 May	Case report
50	Goda S, Yuba T, Yamamoto K et al.	呼吸器内科	Two Cases of Lung Abscess and Pleuritis in Severe COVID-19 Patients	Cureus 16(6):e61614.2024 Jun	Case report
51	Ichikawa T, Okada H, Hamaguchi M, et al.	内分泌・糖尿病・代謝内科	The transition of metabolic phenotypes and cardiovascular events: Panasonic cohort study 16	Obesity (Silver Spring). 2024 May;32(5):999-1008	Original Article
52	Minamida M, Okada H, Hamaguchi M, et al.	内分泌・糖尿病・代謝内科	Association between gastrointestinal symptoms and insomnia in patients with type 2 diabetes: The KAMOGAWA-DM cohort study	Journal of Diabetes Investigation. 2024 Jul;15(7):946-952	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
53	Toyokuni E, Okada H, Hamaguchi M, et al.	内分泌・糖尿病・代謝内科	Eating behaviors and incidence of type 2 diabetes in Japanese people: The population-based Panasonic cohort study 15	Journal of Diabetes Investigation. 2024 Aug;15(8):1017-1025	Original Article
54	Toyokuni E, Okada H, Hasegawa G, et al.	内分泌・糖尿病・代謝内科	Super paramagnetic iron oxide contrast-enhanced magnetic resonance imaging was useful in differentiating an insulinoma from an accessory spleen: a case report with review of literature	Endocrine Journal. 2024 Aug;71(8):809-815	Original Article
55	Munekawa C, Okamura T, Majima S, et al.	内分泌・糖尿病・代謝内科	Daidzein Inhibits Muscle Atrophy by Suppressing Inflammatory Cytokine- and Muscle Atrophy-Related Gene Expression	Nutrients. 2024 Sep13;16(18):3084	Original Article
56	Okamura T, Hamaguchi H, Kobayashi G, et al.	内分泌・糖尿病・代謝内科	A multi-omics approach to overeating and inactivity-induced muscle atrophy in db/db mice	Journal of Cachexia, Sarcopenia and Muscle. 2024 Oct;15(5):2030-2045	Original Article
57	Ichikawa T, Okada H, Hironaka J, et al.	内分泌・糖尿病・代謝内科	Efficacy of long-term low carbohydrate diets for patients with type 2 diabetes: A systematic review and meta-analysis	Journal of Diabetes Investigation. 2024 Oct;15(10):1410-1421	Original Article
58	Matsui T, Ushigome E, Hamaguchi M, et al.	内分泌・糖尿病・代謝内科	Increased Insulin Requirements in Severe Cases of Covid-19 are Higher Than in Moderate Cases	Diabetes, Metabolic Syndrome and Obesity. 2024 Oct;17:3727-3733	Original Article
59	Ono Y, Okada H, Kitagawa Y, et al.	内分泌・糖尿病・代謝内科	Impact of Personal Health Records on Diabetes Management: A Propensity Score Matching Study	Diabetology. 2024 Nov; 5(7): 640-655	Original Article
60	Hasegawa Y, Okamura T, Ono Y, et al.	内分泌・糖尿病・代謝内科	Oral exposure to high concentrations of polystyrene microplastics alters the intestinal environment and metabolic outcomes in mice	Frontiers in Immunology. 2024 Nov;15:1407936	Original Article
61	Kobayashi G, Shinozaki T, Okada H, et al.	内分泌・糖尿病・代謝内科	Associations between anthropometric indices as complementary predictors and incidence of type 2 diabetes; Panasonic Cohort Study 21	Diabetes Research and Clinical Practice. 2024 Nov;217:111888	Original Article
62	Hironaka J, Hamaguchi M, Ichikawa H, et al.	内分泌・糖尿病・代謝内科	Low-carbohydrate diets in East Asians with type 2 diabetes: A systematic review and meta-analysis of randomized controlled trials	Journal of Diabetes Investigation. 2024 Dec;15(12):1753-1762	Original Article
63	Sakai K, Okamura T, Toyokuni E, et al.	内分泌・糖尿病・代謝内科	Metabolic dysfunction-associated steatotic liver disease: A superior predictor for incident type 2 diabetes over traditional criteria - NAGALA study	Journal of Diabetes Investigation. 2024 Dec;15(12):1788-1796	Original Article
64	Nakajima H, Okada H, Kogure A, et al.	内分泌・糖尿病・代謝内科	Multicenter, open label, randomized controlled superiority trial for availability to reduce nocturnal urination frequency: The TOP-STAR study	Journal of Diabetes Investigation. 2024 Dec;15(12):1809-1817	Original Article
65	Ichikawa T, Hashimoto Y, Igarashi Y, et al.	内分泌・糖尿病・代謝内科	Association between gut microbiota and ultra-processed foods consumption among the patients with type 2 diabetes: a cross-sectional study	Nutrition & Metabolism (Lond). 2024 Dec;21(1):110	Original Article
66	Yamamoto S, Nakajima H, Okada H, et al.	内分泌・糖尿病・代謝内科	Congenital Hypogonadotropic Hypogonadism With Novel Pathogenic Variants in FGFR1 and GNRHR	The Journal of Clinical Endocrinology and Metabolism Case Reports. 2025 Jan;3(1):luae254.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
67	Okamura T, Kitagawa N, Kitagawa N, et al.	内分泌・糖尿病・代謝内科	Single-cell analysis reveals islet autoantigen's immune activation in type 1 diabetes patients	Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition. 2025 Jan;76(1):64-84	Original Article
68	Hironaka J, Ushigome E, Kondo Y, et al.	内分泌・糖尿病・代謝内科	Changes in food preferences after oral semaglutide administration in Japanese patients with type 2 diabetes: KAMOGAWA-DM cohort	Diabetes & Vascular Disease Research.2025 Jan-Feb;22(1):14791641251318309	Original Article
69	Katayama T, Nakanishi N, Inagake H, et al.	内分泌・糖尿病・代謝内科	Significance of an Early Diagnosis of Autoimmune Gastritis in Nonelderly Patients with Type 1 Diabetes Mellitus and Autoimmune Thyroid Disease: A Case Report	Internal Medicine. 2025 Feb;18doi: 10.2169	Original Article
70	Hironaka J, Okada H, Osaka H, et al.	内分泌・糖尿病・代謝内科	Non-inferiority of sodium zirconium cyclosilicate versus potassium-restricted diet in achieving normokalaemia in patients with type 2 diabetes mellitus: protocol for a multicentre, open-label, randomised controlled, two-arm clinical trial (SILVERSTAR study)	British medical journal open. 2025 Mar;15(3):e089564	Original Article
71	Ushigome E, Imai D, Hamaguchi M, et al.	内分泌・糖尿病・代謝内科	Maximum insulin dose in patients admitted to the intensive care units with severe COVID-19 in the "Cross ICU Searchable Information System" study: A multicenter retrospective cohort study	Journal of Diabetes Investigation. 2025 Mar;16(3):555-560.	Original Article
72	Ichikawa T, Hashimoto Y, Okamura T, et al.	内分泌・糖尿病・代謝内科	Relationship between anthropometric measures and the risk of incident Metabolic dysfunction-associated steatotic liver disease: a longitudinal study	BMC Gastroenterology. 2025 Mar;25(1):202.	Original Article
73	Munekawa C, Horiguchi G, Naito A, et al.	内分泌・糖尿病・代謝内科	Development of a Prediction Model for Predicting 10-year Incidence of Type 2 Diabetes in Japanese People; Panasonic Cohort Study 7	Diabetes/Metabolism Research and Reviews. 2025 Mar;41(3):e70040	Original Article
74	Sumi M, Ushigome E, Kitagawa N, et al.	内分泌・糖尿病・代謝内科	Second home blood pressure measurements per occasion predict incident cardiovascular events in type 2 diabetes: KAMOGAWA-HBP study	Hypertension Research. 2025 Mar;48(3):950-958	Original Article
75	Ushigome E, Fukui M.	内分泌・糖尿病・代謝内科	Comment to "Prevalence of masked and white-coat hypertension among individuals with diabetes: insights from web-based home blood pressure monitoring in the Brazilian population"	Hypertension Research. 2025 Mar;48(3):1181-1183	Original Article
76	Daisuke Ide, Takahiro Fujino, Tsutomu Kobayashi, et al.	血液内科	Prognostic model for relapsed/refractory transplant-ineligible diffuse large B-cell lymphoma utilizing the lymphocyte-to-monocyte ratio	Int J Hematol. 2024 Jun;119(6):697-706	Original Article
77	Yui Niiyama-Uchibori, Shinsuke Mizutani, Taku Tsukamoto, et al.	血液内科	Small cell pattern of ALK-negative anaplastic large cell lymphoma with double-hit rearrangements of DUSP22 and TP63	EJHaem. 2024 Jun 17;5(4):798-801	Case report
78	Haruya Okamoto, Shinsuke Mizutani, Taku Tsukamoto, et al.	血液内科	Robust anti-myeloma effect of TAS0612, an RSK/AKT/S6K inhibitor, with venetoclax regardless of cytogenetic abnormalities	Leukemia. 2025 Jan;39(1):211-221.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
79	Hiroaki Nagata, Taku Tsukamoto, Tsutomu Kobayashi, et al.	血液内科	The real-world efficacy and safety of frontline therapy of obinutuzumab plus bendamustine for untreated high-tumor-burden follicular lymphoma	Int J Clin Oncol. 2025 Mar;30(3):593-603.	Original Article
80	Yu Inoue, Taku Tsukamoto, Kentaro Mizuhara, et al.	血液内科	Primary Cutaneous CD8-positive Aggressive Epidermotropic Cytotoxic T-cell Lymphoma Complicated by Paraneoplastic Encephalitis	Intern Med. 2025 Feb 1. (オンライン)	Case report
81	Akio Onishi, Aya Miyagawa-Hayashino, Haruya Okamoto, et al.	血液内科	Phosphorylation status and prognostic impacts of RSK2, PDPK1, and AKT in malignant lymphoma	Leuk Lymphoma. 2025 Mar 25:1-12	Original Article
82	Takahiro Fujino, Haruya Okamoto, Daichi Nishiyama, et al.	血液内科	Real-world data of polatuzumab vedotin with bendamustine and rituximab for Japanese relapsed and refractory DLBCL: a multicenter retrospective study	Leuk Lymphoma. 2025 Mar 25:1-12.	Original Article
83	Ohara T, Watanabe H, Hosomi A, Mizuta I, et al.	脳神経内科	Potential stroke-preventive effect of lomerizine hydrochloride in CADASIL patients	Vas-Cog J.2024, Jun, 44, 147	Review
84	Fukunaga D, Ohara T, Fujinami J, et al.	脳神経内科	Magnetic resonance imaging features and stroke etiology of ischemic stroke in essential thrombocythemia.	J Neurological Sci. 2024 Nov, 15, 466	Original Article
85	Fukunaga D, Fujinami J, Kishitani T, et al.	脳神経内科	Absence of susceptibility vessel sign with cancer-associated hypercoagulability-related stroke.	AJNR, 2024 Oct, 45, 1427	Original Article
86	Mizuno T, Ohara T, Mizuta I, et al.	脳神経内科	Study protocol for LOMCAD Trial: Effect of lomerizine hydrochloride to prevent recurrence of cerebral ischemic events in CADASIL patients.	Stroke Cerebrovasc Dis, 2024 Dec, 33, 108042	Original Article
87	Shinomoto M, Takeuchi C, Tatebe H, et al.	脳神経内科	Comparison between DSQIID total / sub-item scores and plasma p-tau elevation in adults with Down's syndrome.	Plos One, 2024 Dec, 19, e0311878	Original Article
88	Nakamura T, He X, Hattori N, et al.	脳神経内科	Dilemma in patients with amyotrophic lateral sclerosis and expectations from brain-machine interfaces.	Annals of Medicine, 2024 Dec;56(1):2386516.	Original Article
89	Ishii R, Ishizuchi K, Watanabe N, et al.	脳神経内科	Efficacy and tolerability of 100 mg of Lasmiditan for migraine: A multi-center, prospective observational real-world study in Japan.	Cephalalgia, 2024 Jun, 44, 1	Original Article
90	Ishii R, et al.	脳神経内科	Quality of Life and Work Productivity and Activity Impairment among Online Survey Respondents with Migraine across a Range of Headache Frequency.”	Frontiers in Neurology, 2024 Jul, 15, 1440733	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
91	Nakabayashi Y, Kiuchi J, Kubota T, et al.	消化器外科	A novel semi-quantitative scoring method for CD8+ tumor-infiltrating lymphocytes based on infiltration sites in gastric cancer.	American journal of cancer research. 2024 Dec ; 14(12)::5965-5986	Original Article
92	Arakawa H, Komatsu S, Kiuchi J, et al.	消化器外科	Overexpression of SHANK2 contributes malignant outcomes as a Hippo pathway regulator in gastric cancer	American journal of cancer research. 2025 Jan ; 15(1)::363-374	Original Article
93	Imamura T, Yamamoto Y, Morimura R, et al.	消化器外科	Association between surgical difficulty and tumor location based on subsegments of the Glisson branches in laparoscopic liver resection	Annals of gastroenterological surgery. 2024 Nov ; 9(3):546-558.	Original Article
94	Yamamoto Y, Morimura R, Imamura T, et al.	消化器外科	Utility of Laparoscopic Distal Pancreatectomy Following Esophagectomy With Gastric Roll Reconstruction Through the Retrosternal Route	Asian journal of endoscopic surgery. 2025 Mar ; 18(1):e70039	Original Article
95	Kubota T, Ohashi T, Nishibeppu K, et al.	消化器外科	Effectiveness of a low-glycaemic-index formula on post-gastrectomy hypoglycaemia in patients with gastric cancer: randomized crossover study	BJS Open. 2025 Mar ; 9(2):zraf001	Original Article
96	Imamura T, Komatsu S, Nishibeppu K, et al.	消化器外科	Urinary microRNA-210-3p as a novel and non-invasive biomarker for the detection of pancreatic cancer, including intraductal papillary mucinous carcinoma.	BMC Cancer. .2024 Jul; 24(1):907	Original Article
97	Shibata R, Konishi H, Arita T, et al.	消化器外科	Extracellular glypican-1 affects tumor progression and prognosis in esophageal cancer.	Cancer Medicine. 2024 Sep; 13(18):e70212.	Original Article
98	Inoue H, Shiozaki A, Kosuga T, et al.	消化器外科	CACNA2D1 regulates the progression and influences the microenvironment of colon cancer.	Journal of gastroenterology..2024 Jul. ;59(7):556-571	Original Article
99	Takabatake K, Shimizu H, Kuriu Y, et al.	消化器外科	Does Neoadjuvant Chemoradiotherapy Have an Additional Effect to Lateral Pelvic Lymph Node Dissection for Rectal Cancer?	Journal of the anus, rectum and colon. 2024 Apr ; 8(2):102-110	Original Article
100	Inoue H, Shimizu H, Kuriu Y, et al.	消化器外科	Patients with T4N0 and T1-3N1 colon cancer and a high preoperative carcinoembryonic antigen level benefit from adjuvant chemotherapy with oxaliplatin for 6 months	Oncology Letters. 2024年 Oct ;29(1):13	Original Article
101	Marunaka Y, Kiuchi J, Kuriu Y, et al.	消化器外科	Re-examining the optimal extent of lymph node dissection for colon cancer using the lymphadenectomy index	Scientific Reports. 2025 Feb ; 15(1):6575	Original Article
102	Nishibeppu K, Kubota T, Yubakami M, et al.	消化器外科	Impact of hypoglycemia after gastrectomy on Global Leader Initiative on Malnutrition-defined malnutrition: a retrospective study	Surgery today.2024 July; 54(7):743-750	Original Article
103	Nakabayashi Y, Ohashi T, Kubota T, et al.	消化器外科	The impact of preoperative skeletal muscle loss on the completion of S-1 adjuvant chemotherapy for gastric cancer	Surgery Today. 2025 Feb; 55(2):238-246	Original Article
104	Marunaka Y, Ohashi T, Kubota T, et al.	消化器外科	Dropped head syndrome suspected due to oxaliplatin used in adjuvant chemotherapy for gastric cancer: a case report	Surgical case reports..2024 Jul; 10 (1):174	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
105	Nishibeppu K, Kubota T, Yubakami M, et al.	消化器外科	Risk assessment for pancreatic fistula by intraoperative image analysis of laparoscopic and robotic gastrectomy	Surgical Endoscopy.2024 Jun;38(6):3388-3394	Original Article
106	Yamamoto Y, Ashida R, Ikoma H, et al.	消化器外科	Evaluation of ventral branches of segment VI portal vein relative to the right hepatic vein in laparoscopic right anterior sectionectomy.	Surgical Endoscopy. 2024 Jul; 38(7):4085-4093	Original Article
107	Kawajiri Hidetake, Kobayashi T, Manabe K et al	心臓血管外科	Utilizing a long sheath to minimize atheroma manipulation (minimal manipulation approach) during Zone 1 and 2 thoracic endovascular aortic repair with a shaggy aorta	J Artif Organs. 2024 Dec;27(4):424-428. doi: 10.1007/s10047-024-01440-4.	Case report
108	Hohri Yu, Kawajiri H, Kanda K et al	心臓血管外科	Side-by-side deployment of gore excluder legs at a narrow terminal aorta for endovascular aneurysm repair	J Artif Organs. 2024 Sep;27(3):238-246. doi: 10.1007/s10047-023-01406-y	Case report
109	Hohri Yu, Zen K, Kawajiri H et al	心臓血管外科	A comparative study on iliofemoral artery calcification distribution in alternative TAVR approaches	Indian J Thorac Cardiovasc Surg. 2025 Mar;41(3):272-280. doi: 10.1007/s12055-024-01841-3.	Case report
110	Ishihara S, Shimomura M, Tsunozuka H	呼吸器外科	Intrapericardial pulmonary vein ligation to prevent stump thrombosis during left upper lobectomy.	Ann Thorac Surg Short Rep. 2024 May 27;2(4):608-612.	Original Article
111	Shimomura M, Okada S, Furuya T	呼吸器外科	Short-term outcomes of robotic subxiphoid-optical thymectomy.	Surg Today. 2025 Feb;55(2):205-210	Original Article
112	Matsuura Y, Onuma K, Coppo R	呼吸器外科	Dynamic change of polarity in spread through air spaces of pulmonary malignancies.	J Pathol. 2025 Mar;265(3):260-273	Original Article
113	Morita M, Tsunashima M, Yoshinami T et al.	内分泌・乳腺外科	A 5-year review of genomic medicine in breast cancer: insights from C-CAT data on 3776 Japanese patients.	Breast Cancer 2025 Mar;32(2):314-328.	Original Article
114	Kato C, Iizuka-Ohashi M, Honda M et al.	内分泌・乳腺外科	Additional statin treatment enhances the efficacy of HER2 blockade and improves prognosis in Rac1-high/HER2-positive breast cancer. Additional statin treatment enhances the efficacy of HER2 blockade and improves prognosis in Rac1-high/HER2-positive breast cancer. K	Biochim Biophys Acta Mol Basis Dis 2024 Dec;1870(8):167458.	Original Article
115	Kitano S, Tsunashima R, Kato C et al.	内分泌・乳腺外科	Validation of late recurrence prediction by gene expression profiles and clinicopathological factors in estrogen receptor-positive breast cancer	Breast Cancer 2024 Sep;31(5):898-908.	Original Article
116	Watanabe A, Tsunashima R, Kato C et al.	内分泌・乳腺外科	Investigation of recurrence prediction ability of EndoPredict® using microarray data from fresh frozen tissues in ER-positive, HER2-negative breast cancer and indication expansion of EndoPredict® from microarray data from fresh-frozen to FFPE tissues	Breast Cancer 2024 Jul;31(4):593-606.	Original Article
117	Inafuku N, Sowa Y, Kishida T, et al.	形成外科	Investigation of the stemness and wound-healing potential of long-term cryopreserved stromal vascular fraction cells	Regen Ther . 2025 Mar 13;29:128-139.	Original Article
118	Okamoto T, Mizuta R, Takahashi Y, et al.	脳神経外科学教室	Genomic landscape of glioblastoma without IDH somatic mutation in 42 cases: a comprehensive analysis using RNA sequencing data	Journal of Neurooncology. 2024 May; 167: 489-499	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
119	Arai Y, Cha R, Nakagawa S, et al.	整形外科	Cartilage homeostasis under physioxia	International Journal of Molecular Sciences. 2024 Aug; 25: 9398	Review
120	Cha R, Nakagawa S, Arai Y, et al.	整形外科	Enhancing cartilage metabolism in rats through a novel thermal stimulation technique with photosensitizers.	International Journal of Molecular Sciences. 2024 Jun; 25: 6728	Original Article
121	Imai K, Tokunaga D, Nakamura S, et al.	整形外科	Novel assessment technique: Ring gauge measurement of finger joint circumference changes in patients with rheumatoid arthritis	Open Journal of Rheumatology and Autoimmune Diseases. 2024 Nov; 14: 190-200	Original Article
122	Inoue A, Arai Y, Yoshihara Y, et al.	整形外科	Staged bi-compartmental knee arthroplasty for contralateral compartment failure after medial unicompartmental knee arthroplasty in dialysis patients: Two case reports	Cureus Journal of Medical Science. 2024 Jun; 16: e62892	Case report
123	Katsuyama Y, Horie N, Yoshii K, et al.	整形外科	Development and validation of a prognostic scoring system for 1-year mortality in older patients with hip fractures	Age and Ageing. 2024 Sep; 53: afae195	Original Article
124	Katsuyama Y, Nakamura S, Sasaki K, et al.	整形外科	Avulsion fracture of olecranon treated with McLaughlin-cerclage using an artificial ligament: a case report	Journal of Surgical Case Reports. 2024 Aug; 8: rjae542	Case report
125	Kobayashi Y, Ikoma K, Maki M, et al.	整形外科	Determining the changes in morphology and loading status following medial displacement calcaneal osteotomy for flatfoot using patient-specific finite element models	Scientific Reports. 2024 Jun; 14: 14766	Original Article
126	Kobayashi Y, Ikoma K, Maki M, et al.	整形外科	Validation of patient-specific flatfoot models on finite element analysis	Computer Methods in Biomechanics and Biomedical Engineering. 2024 Oct; 17: 1-9	Original Article
127	Takatsuji K, Kida Y, Sasaki K, et al.	整形外科	Deep learning based computer aided diagnosis for osteochondritis dissecans of the humeral capitellum in ultrasound images	The Journal of bone and joint surgery. American volume. 2024 Dec; 106: 2196-2204	Original Article
128	Tonomura H, Nagae M, Ishibashi H, et al.	整形外科	Posterior occipitocervical fixation and intrathecal baclofen therapy for the treatment of basilar invagination with Klippel-Feil syndrome: A case report	Medicina (Kaunas). 2024 May; 60: 755	Case report
129	Khan KN, Guo SW, Ogawa K, et al.	産婦人科	The role of innate and adaptive immunity in endometriosis	Journal of Reproductive Immunology. 2024 Jun; 163: 104242	Original Article
130	Kokabu T, Tarumi Y, Aoki Y, et al.	産婦人科	Effects of PARP Inhibitors on Subsequent Platinum-Based Chemotherapy in Patients with Recurrent Ovarian Cancer	Cancers 2024 Jul, 16: 2651	Original Article
131	Khan KN, Ogawa K, Iwasa K, et al.	産婦人科	Patterns of menstrual cycle, menstrual pain and medication usage in young women from high- and middle-income countries	Reproductive BioMedicine Online. 2024 Aug; 49: 103942	Original Article
132	Tokuyama H, Tarumi Y, Yamauchi S, et al.	産婦人科	Bladder rupture 11 years after partial cystectomy for bladder endometriosis: A case report and review of literature	Case Reports in Women's Health. 2024 Oct; 44: e00657	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
133	Khan KN, Fujishita A, Hiraki K, et al.	産婦人科	Lack of association between the length of anogenital distance and vaginal pH in women with endometriosis	Journal of Obstetrics and Gynaecology Research 2024 Dec, 50: 2327-2337	Original Article
134	Yoriki K, Izumi Y, Tarumi Y, et al.	産婦人科	A case of ovarian carcinosarcoma with germline BRCA2 pathogenic variant	Journal of Obstetrics and Gynaecology Research. 2024 Dec; 50: 2362-2366	Original Article
135	Waratani M, Hasegawa T, Shimura K, et al.	産婦人科	Prenatal diagnosis of achondroplasia and hypochondroplasia using three-dimensional computed tomography: a case series at a single institution	Quantitative Imaging in Medicine and Surgery. 2024 Dec; 14: 9543-9551	Original Article
136	Takatsuka S, Kataoka H, Ito F, et sl.	産婦人科	Pathogenesis, Diagnosis, and Management of Inguinal Endometriosis: A Case Series of Six Patients	Reproductive Sciences. 2025 Mar; 32: 647-654	Original Article
137	Numa K, Patel SK, Zhang ZA, etal.	眼科	Senescent characteristics of human corneal endothelial cells upon ultraviolet-A exposure	Aging (Albany NY), 16(8):6673-6693, 2024 Apr	Original Article
138	Kitazawa K, Toda M, Ueno M, etal.	眼科	Donor Corneal Endothelial Cell Maturity and Its Impact on Graft Survival in Glaucoma Patients Undergoing Corneal Transplantation	Am J Ophthalmol, 262:1-9, 2024 Jun	Original Article
139	Tomioka Y, Tanaka H, Sotozono C, etal.	眼科	A comprehensive long-term follow-up study of Brown-McLean syndrome	Am J Ophthalmol Case Rep., 36:102146, 2024 Aug	Case report
140	Yoshioka H, Ueta M, Fukuoka H, etal.	眼科	Alteration of Gene Expression in Pathological Keratinization of the Ocular Surface	Invest Ophthalmol Vis Sci., 65(6):37, 2024 Jun	Original Article
141	Tomioka Y, Ueno M, Yamamoto A, etal.	眼科	Guttae Morphology After Cultured Corneal Endothelial Cell Transplant in Fuchs Endothelial Corneal Dystrophy	JAMA Ophthalmol, 142(9):818-826, 2024 Sep	Original Article
142	Ueno M, Imai K, Tomioka Y, et al.	眼科	Comprehensive combined analysis of physician-initiated phase II and III clinical trials on a cultured human corneal endothelial cell product for treating bullous keratopathy	Jpn J Ophthalmol., 68(6):660-668, 2024 Nov	Original Article
143	Tanioka H, Deguchi H, Kinoshita S, etal.	眼科	A New Method for Lateral Visualization of the Primary Cilia on the Surfaces of Cells Cultured on White Glass Rods	Transl Vis Sci Technol, 13(11):19, 2024 Nov 4	Original Article
144	Deguchi H, Nagata K, Inaba T, et al.	眼科	Novel diagnostic method for B cell vitreoretinal lymphoma by identification of regulatory T cells and PD-1+ cytotoxic T lymphocytes in the vitreous via flow cytometry	Br J Ophthalmol., 109(4):510-515, 2025 Mar 20	Original Article
145	Mieno H, Mori K, Yoshii K, etal.	眼科	Risk factors and protective strategies for hypotony following preserflo microshunt implantation	Sci Rep., 15(1):8344, 2025 Mar 11	Original Article
146	Kitazawa K, Kozaki R, Yamashita Y, etal.	眼科	Corneal infection complicating acute corneal hydrops in keratoconus patients	Am J Ophthalmol Case Rep., 38:102303, 2025 Mar 7	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
147	Matsumoto A, Fukuoka H, Sotozono C.	眼科	Descemet's Membrane Detachment During Cataract Surgery in Lattice Corneal Dystrophy Type I: Histopathological Analysis of Posterior Corneal Involvement	Cureus, 17(3):e81431, 2025 Mar 29	Original Article
148	Asai J, Ohta R, Maruyama A, et al.	皮膚科	Lichen planus pigmentosus successfully treated with topical delgocitinib.	Journal of Dermatology 51(7);e243-e244, 2024 Jul.	Letter
149	Asai J, Maruyama A, Katoh N.	皮膚科	Lupus miliaris disseminates faciei successfully treated with topical adapalene and benzoyl peroxide.	Journal of Dermatology 51(6);e214-e215, 2024 Jun.	Letter
150	Tamagawa-Mineoka R, Taniguchi M, Ioka N, et al.	皮膚科	Depigmented contact dermatitis due to phenylbenzimidazole sulfonic acid contained in skin lotion.	Contact Dermatitis 91(3); 259-260, 2024 Sep.	Case report
151	Kawasaki-Nagano M, Tamagawa-Mineoka R, Kurioka T, et al.	皮膚科	Lysophosphatidylcholine acyltransferase 2 contributes to increased allergic and irritant inflammation in mice.	Experimental Dermatology 33(11); e70015, 2024 Nov.	Original Article
152	Nakanishi M, Tamagawa-Mineoka R, Nishigaki H, et al.	皮膚科	Role of Siglec-E in MC903-Induced Atopic Dermatitis.	Experimental Dermatology 34(2); e70064, 2025 Feb.	Original Article
153	Keisuke Tsuji, Masatomo Kaneko, Yuki Harada et al.	泌尿器外科学	A Fully Automated Artificial Intelligence System to Assist Pathologists' Diagnosis to Predict Histologically High-grade Urothelial Carcinoma from Digitized Urine Cytology Slides Using Deep Learning	European Urology Oncology. 2024 Apr; 7(2) : 258-265	Original Article
154	Osamu Ukimura	泌尿器外科学	Editorial Comment on Does intensity-modulated radiation therapy by helical tomotherapy for prostate cancer increase the subsequent risk of bladder cancer? A propensity score-matched analysis	International Journal of Urology. 2024 Apr; 31(4) : 385	Letter
155	Masayoshi Okumi	泌尿器外科学	Editorial Comment on Longitudinal mortality risks and kidney functional outcomes in Japanese living kidney donors	International Journal of Urology. 2024 May; 31(5) : 525	Letter
156	Koji Okihara, Takashi Ueda, Atsuko Fujihara et al.	泌尿器外科学	Novel image1-guided marker aimed at organ-preserving therapies for prostate cancer	International Journal of Urology. 2024 May; 31(5) : 500-506	Original Article
157	Masatomo Kaneko, Atsuko Fujihara, Tsuyoshi Iwata et al.	泌尿器外科学	A nomogram to predict the absence of clinically significant prostate cancer in males with negative MRI	International Brazilian of Urology. 2024 May-Jun; 50(3) : 319-334	Original Article
158	Shinya Miyazaki, Takashi Ueda, Masayoshi Okumi et al.	泌尿器外科学	Endovascular aortic protection prior to retroperitoneal lymph node dissection for testicular cancer	International Journal of Urology. 2024 Jul ; 31(7) : 832-834	Original Article
159	Saya Ito, Akihisa Ueno, Takashi Ueda et al.	泌尿器外科学	A testis-specific lncRNA functions as a post-transcriptional regulator of MDM2 and stimulates apoptosis of testicular germ cell tumor cells	Cell Death Discovery. 2024 Aug; 10(1) : 348	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
160	Yuta Inoue, Takeshi Yamada, Yuji Okusa et al.	泌尿器外科学	Robot-assisted radical cystectomy using real-time transrectal ultrasound guidance in a patient who had radical prostatectomy and salvage external beam radiation therapy	IJU Case Reports. 2024 Oct;8(1):28-31	Case report
161	Masayoshi Okumi, Yuta Inoue, Masatsugu Miyashita et al.	泌尿器外科学	Genitourinary malignancies in kidney transplant recipients	International Journal of Urology. 2024 Dec ;31 (12):1321-1329	Original Article
162	Osamu Ukimura	泌尿器外科学	New year's greeting	International Journal of Urology. 2025 Jan ;32(1) : 5	Letter
163	Morimoto H, Tsujikawa T, Miyagawa- Hayashino A, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Neutrophil-to-lymphocyte ratio associates with nutritional parameters, intratumoral immune profiles, and clinical outcomes of pembrolizumab in head and neck squamous cell carcinoma.	Head Neck. 2024 Aug 46(8)1956-1964 . doi: 10.1002/hed.27671. Online ahead of print.	Original Article
164	Kimura A, Tsujikawa T, Morimoto H, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Rapid multiplex immunohistochemistry for characterizing tumor-immune microenvironment.	Heliyon 10(13): e33830. 2024 Jun	Original Article
165	Tsujikawa T, Ohno K, Morita K, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Clinical, genomic and immune microenvironmental determinants of nivolumab response in head and neck squamous cell carcinoma.	Frontiers in Immunology 15: 1390873. 2024 Jul	Original Article
166	Matsushita H, Mukudai S, Hashimoto K, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Transient Receptor Potential Ankyrin 1 Channel Alters Transforming Growth Factor Beta 1/Smad Signaling in Rat Vocal Fold Fibroblasts.	Laryngoscope. 2024 Nov 134(11):4593-4598. doi: 10.1002/lary.31570. Online ahead of print.	Original Article
167	Okamoto S, Yasuda M, Kawaguchi K, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Ciliary Motility Decreased by a CO <sub>2</sub> /HCO <sub>3</sub> <sup>-</sup> -Free Solution in Ciliated Human Nasal Epithelial Cells Having a pH Elevated by Carbonic Anhydrase IV.	Int J Mol Sci. 2024 Aug 21;25(16):9069. doi: 10.3390/ijms25169069.	Original Article
168	Hashimoto K, Sugiyama Y, Kaneko M, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	A dysphagia model with denervation of the pharyngeal constrictor muscles in guinea pigs: functional evaluation of swallowing.	Front Neurol. 2024 Jun 19;15:1401982. doi: 10.3389/fneur.2024.1401 982. eCollection 2024.	Original Article
169	Imai Ayu, Matuoka T, Nakayama C, et al.	精神科・心療内科	Effectiveness of a Virtual Reality Open-Air Bath Program in Reducing Loneliness and Improving Brain Function for Dementia Prevention in Older Adults: Protocol for a Prospective Randomized Crossover Study	JMIR Res Protoc . 2024 Aug 1:13:e57101. doi: 10.2196/57101.	Original Article
170	Yamazaki Hideya, Suzuki G, Masui K, et al.	放射線科	The influence of Gleason score ≤6 histology on the outcome of high-risk localized prostate cancer after modern radiotherapy	Scientific reports. 2024 Apr 5, 14(1):8011.	Original Article
171	Yamada Kei.	放射線科	Imaging Studies Play a Pivotal Role in Elucidating the Pathophysiology of Parkinson Disease	Radiology. 2024 Jun, 311 (3):e241285.	Others

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
172	Yamada Kei.	放射線科	Editorial for "Probing Evidence of Cerebral White Matter Microstructural Disruptions in Ischemic Heart Disease Before and Following Cardiac Rehabilitation: A Diffusion Tensor MR Imaging Study"	Journal of magnetic resonance imaging. 2024 Jun, 59(6):2150-2151.	Others
173	Suzuki Gen, Yamazaki H, Aibe N, et al.	放射線科	Optimizing Therapeutic Approaches in Superficial Esophageal Cancer: Reduced-volume Radiotherapy and Dose-dense Chemotherapy After Endoscopic Resection	Anticancer research, 2024 Jul, 44(7):3133-3139.	Original Article
174	Tokuda Bunta, Sato O, Katada K, et al.	放射線科	Intracholecystic papillary neoplasm misdiagnosed as adenomyomatosis on imaging: a case report	Abdominal radiology. 2025 Mar, 50(3):1153-1157.	Case report
175	Hayakawa Katsumi, Tanda K, Nishimoto M, et al.	放射線科	Usefulness of apparent diffusion coefficient values for assessment of MRI abnormality at term equivalent age in low-birth-weight infants weighing less than 1500 g	Japanese journal of radiology. 2025 Mar, 43(3):502-508.	Original Article
176	Kazuki Sudo, Mao Kinoshita, Ken Kawaguchi, et al.	麻酔科	Case study observational research: inflammatory cytokines in the bronchial epithelial lining fluid of COVID-19 patients with acute hypoxemic respiratory failure.	Critical Care 2024 Apr 23;28(1):134.	Original Article
177	Ryogo Yoshii, Yuya Takahashi, Kenichi A Tanaka, et al.	麻酔科	Point of care testing for tranexamic acid efficacy: a proof-of-concept study in cardiac surgical patients.	Br J Anaesth. 2024 Jun;132 (6): 1211-1218.	Original Article
178	Kosuke Kushimoto, Yurie Obata, Tomomi Yamada, et al.	麻酔科	Variational mode decomposition analysis of electroencephalograms during general anesthesia: using the grey wolf optimizer to determine hyperparameters.	Sensors 2024 Sep 4;24(17):5749.	Original Article
179	Shoko Yamochi, Tomomi Yamada, Yurie Obata, et al.	麻酔科	Wavelet transform-based mode decomposition for EEG signals under general anesthesia.	PeerJ 2024 Nov 15;12:e18518.	Original Article
180	Daiki Ishikawa, Shunsuke Yamakita, Kentaro Oh-Hashi, et al.	麻酔科	Critical Role of p38 $\alpha$ MAPK Subclass in the Development of Pain Hypersensitivity After Hind Paw Incision.	J Pain Res. 2025 Feb 21;18:869-878.	Original Article
181	Teiji Sawa, Kiyoshi Moriyama, Mao Kinoshita.	麻酔科	Current status of bacteriophage therapy for severe bacterial infections.	Journal of intensive care 2024 Nov 12(1) 44-44.	Review
182	Teiji Sawa, Pipat Saeyup, Mao Kinoshita, et al.	麻酔科	Pulmonary vein stump thrombosis and organ infarction after lung lobectomy.	Journal of anesthesia 2024 Dec;38(6):866-878.	Review
183	Atsushi Kainuma, Ayaka Koyama, Mao Kinoshita, et al.	麻酔科	Remimazolam for general anesthesia in a patient with aortic stenosis and severe obesity undergoing transcatheter aortic valve implantation.	JA clinical reports 2024 May 27;10(1):34.	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
184	Ayaka Higashi, Mao Kinoshita, Kazuki Sudo, et al.	麻酔科	Anesthetic Management of Thoracoscopic Pulmonary Cystectomy in a Patient With Fontan Circulation and Disturbed Lung Inflation During Leakage Testing: A Case Report.	Cureus 2024 Jul 12;16(7):e64391.	Case report
185	Takeshita N, Sakaki S, Saba R, et al.	小児科	Acto3D: an open source user-friendly volume rendering software for high-resolution 3D fluorescence imaging in biology	Development. 151(8):dev202550. Apr, 2024.(オンライン)	Original Article
186	Matuura A, Tozawa T, Moroto M, et al.	小児科	Alternating cerebral edema and arterial dilations in Molybdenum deficiency typeA.	Journal of Inherited Metabolic Disease. 47(5):1109-1111. Sep, 2024.	Case report
187	Hosoi H, Miyachi M, Teramukai S, et al.	小児科	Results of the JRS-I LRA0401 and LRB0402 Japan Rhabdomyosarcoma Study Group trials for low-risk embryonal rhabdomyosarcoma.	International Journal of Clinical Oncology. 29(11):1746-1755. Nov, 2024.	Original Article
188	Yoshida H, Osone S, Konishi M, et al.	小児科	Myeloproliferative neoplasm harboring both monosomy 7 and an ALK/ROS1 fusion gene: Proposal for a new disease entity.	EJHaem. 17;6(1):e1071.Dec, 2024. (オンライン)	Original Article
189	Zuiki M, Ohta M, Fujita N, et al.	小児科	The prediction of estimated cerebral perfusion pressure with trans-systolic time in preterm and term infants.	European Journal of Pediatrics. 183(6):2587-2595. Jun, 2024.	Original Article
190	Zuiki M, Asuka K, Hasegawa T, et al.	小児科	Radiographic scores as a predictor of oxygenation index in very low-birthweight infants.	Pediatrics International. 66(1):e15811.Sep, 2024.(オンライン)	Original Article
191	Zuiki M, Hasegawa T, Ohshimo S, et al.	小児科	The usefulness of continuous respiratory sound monitoring for the detection of pulmonary atelectasis in a ventilated extremely low birth weight infant.	Cureus. 25;16(7):e65394.Jul, 2024. (オンライン)	Case report
192	Matsuoka T, Yoshida H, Kasai T, et al.	小児科	$\alpha$ -Synuclein pathology in Drosophila melanogaster is exacerbated by haploinsufficiency of Rop: connecting STXBP1 encephalopathy with $\alpha$ -synucleinopathies.	Human Molecular Genetics. 33(15):1328-1338. Jul, 2024.	Original Article
193	Matsuoka T, Yoshida T, Kora K, et al.	小児科	A mild case of Cockayne syndrome with a novel start-loss variant of ERCC8.	Human Genome Variation. 7;11(1):39. Nov, 2024.	Case report
194	Nishida A, Nishida M, Iehara T.	小児科	Delayed treatment with erythropoietin attenuates renal fibrosis in mouse model of unilateral ureteral obstruction.	International Journal of Urology. 31(6):685-692. Jun, 2024.	Original Article
195	Naito Y, Osone S, Mitsuno K, et al.	小児科	Allogeneic hematopoietic cell transplantation with reduced toxicity conditioning for pediatric B lymphoid malignancy.	Journal of Pediatric Hematology/Oncology. 46(7):e537-e540. Oct, 2024.	Original Article
196	Mitsuno K, Suematsu M, Naito Y, et al.	小児科	Selective Jak2 pathway inhibition enhances anti-leukemic functionality in CD19 CAR-T cells.	Cancer Immunology, Immunotherapy. 74(3):79. Feb, 2025.	Original Article
197	Nishida N, Sugimoto S, Miyagaki S, et al.	小児科	Anti-inflammatory effect of Angiotensin 1-7 in white adipose tissue.	Adipocyte. 14(1):2449027. Jan, 2025.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
198	Inoue S, Nosetani M, Nakajima Y, et al.	小児科	Sonic Hedgehog signaling regulates the optimal differentiation pace from early-stage mesoderm to cardiogenic mesoderm in mice.	Development, Growth & Differentiation. 67(2):75-84. Feb, 2025.	Original Article
199	Fumino S, Hirohata Y, Takayama S, et al	小児外科	Long-term outcomes of infantile sacrococcygeal teratoma: Results from a multi-institutional retrospective observational study in Japan	J Pediatr Surg, 59: 587-592, 2024 Apr	Original Article
200	Nagayabu K, Fumino S, Shimamura A, et al	小児外科	The clinical impact of macrophage polarity after Kasai portoenterostomy in biliary atresia	Front Pediatr, 12: 1338131, 2024 Jan	Original Article
201	Shimamura A, Higashi M, Nagayabu K, et al	小児外科	Stable two- and three-dimensional cholangiocyte culture systems from extrahepatic bile ducts of biliary atresia patients: use of structural and functional bile duct epithelium models for in vitro analyses	Cytotechnology, 76: 415-424, 2024 Aug	Original Article
202	Mimura K, Fumino S, Yamashi K, et al	小児外科	Systemic inflammation enhances metastatic growth in a syngeneic neuroblastoma mouse model	Pediatr Surg Int, 40: 195, 2024 Jul	Original Article
203	Nagano S, Fumino S, Kishida T, et al	小児外科	Development of a skeletal muscle sheet with direct reprogramming-induced myoblasts on a nanogel-cross-linked porous freeze-dried gel scaffold in a mouse gastroschisis model	Pediat Surg Int, 40: 241, 2024 Aug	Original Article
204	Suzuki K, Fumino S, Iguchi M, et al	小児外科	Multidisciplinary therapeutic strategy with appropriate timing and modalities for treating cervicofacial lymphatic malformations in children	Pediatr Surg Int, 41: 35, 2024 Dec	Original Article
205	Nakajima S, Matsuyama T, Kandori K, et al.	救急医療科	Impact of time to revascularization on outcomes in patients after out-of-hospital cardiac arrest with STEMI.	Am J Emerg Med. 2024 May;79:136-143.	Original Article
206	Shiozumi T, Miyamoto Y, Morita S, et al.	救急医療科	Association between the severity of hypothermia and in-hospital mortality in patients with infectious diseases: The J-Point registry.	Acute Med Surg. 2024 May 15;11(1):e964.	Original Article
207	Shiozumi T, Miyamoto Y, Morita S, et al.	救急医療科	Characteristics and Outcomes of Venous-Arterial Extracorporeal Membrane Oxygenation in Accidental Hypothermia: A Multicenter Study in Japan.	Ther Hypothermia Temp Manag. 2025 Feb 11.	Original Article
208	Makoto Watanabe, Tetsuhisa Kitamura, Bon Ohta, et al.	救急医療科	Factors associated with neurological outcomes in patients experiencing out-of-hospital cardiac arrest and severe acidemia: retrospective analysis of a nation-wide registry	Resusc Plus. 2024 Oct 25;20:100809.	Original Article
209	Tasuku Matsuyama, Bon Ohta, Makoto Watanabe, et al.	救急医療科	Comparison of hypothermic and normothermic targeted temperature management in out-of-hospital cardiac arrest patients with acute coronary syndrome: a nationwide retrospective study	Crit Care. 2025 Jan 6;29(1):6.	Original Article
210	Shiozumi T, Matsuyama T, Nishioka N, et al.	救急医療科	Evaluation of interventions in prehospital and in-hospital settings and outcomes for out-of-hospital cardiac arrest patients meeting the termination of resuscitation rule in Japan: A nationwide database study (The JAAM-OHCA Registry).	Resuscitation. 2025 Mar;208:110530.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
211	Watanabe M, Atagi N, Makino Y, et al.	救急医療科	Acute alcohol intoxication presenting acquired lesion of the corpus callosum in a young healthy woman: A case of possible Marchiafava-Bignami disease.	Acute Med Surg. 2024 May 2;11(1):e960.	Case report
212	Momoi F, Yamamoto C, Nukui Y et al.	感染症科	A case of coinfection with dengue and parainfluenza virus after travel to Indonesia	Travel Med 2024 Oct;31:118	Case report
213	Yamamoto C, Taniguchi M, Nukui Y et al.	感染症科	Nirmatrelvir Resistance in an Immunocompromised Patient with Persistent Coronavirus Disease 2019. Viruses	Viruses 2024 Apr;16:718- 721.	Original Article
214	Yamamoto C, Maruyama A, Nukui Y et al.	感染症科	Scrub Typhus and Influenza A Co-Infection: A Case Report	Pathogens 2025 Jan;14:64-6.	Case report
215	Yamamoto C, Nukui Y, Furukawa K et al.	感染症科	SARS-CoV-2 RT-PCR as a universal screening on planned admission in asymptomatic patients	J infect Chemother 2024 Jul;30:668-70.	Original Article
216	Honda K, Tanaka N, Miyagawa- Hayashino A, et al.	病理診断科	High frequency of occult transthyretin and apolipoprotein AI-type amyloid in aortic valves removed by valve replacement for aortic stenosis	Amyloid. 2025 Mar; 32: 22-28.	Original Article
217	Miyagawa- Hayashino A, Tsujiikawa T, Konishi E, et al.	病理診断科	Activation of S1PR2 on macrophages and the hepatocyte S1PR2/RhoA/ROCK1/MLC2 pathway in vanishing bile duct syndrome	PLoS One. 2025 Jan; 20: e0317568 (オンライン)	Original Article
218	Omatsu I, Konishi E, Shishido- Hara Y, et al.	病理診断科	An autopsy case of TFE3-rearranged PEComa-like neoplasm with systematic embolization involving the heart	Cardiovascular Pathology. 2025 Jan; 75: 107715 (オンライン)	Case report
219	Kobayashi R, Yoshida N, Morinaga Y, et al.	消化器内科	The Comparison of Diagnostic Ability between Blue Laser/Light Imaging and Narrowband Imaging for Sessile Serrated Lesions with or without Dysplasia	Gastroenterology Research and Practice. 2024 May; 2672289 (オンライン)	Original Article
220	Weng W, Yoshida N, Morinaga Y, et al.	消化器内科	Development of high-quality artificial intelligence for computer-aided diagnosis in determining subtypes of colorectal cancer	Journal of Gastroenterology and Hepatology. 2024 Nov; 39: 2319-2326	Original Article
~					

計220件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること  
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。  
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
----	-------	-----------------------	----	---------------	------

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Omatsu T, Takagi T, Yasuda T, et al.	消化器内科	The association between serum zinc level and clinical features in patients with inflammatory bowel disease.	J Clin Biochem Nutr. 2025 Jan; 76(1): 50-58.	Original Article
2	Satoru Ogawa, Fumimasa Amaya	疼痛・緩和ケア科	A peripherally acting $\mu$ -opioid receptor antagonist for treating opioid-associated tinnitus: A case report.	Palliative Medicine. 2024 Oct; 38: 1065-8	Case report
3	Takimoto A, Fumino S, Iguchi M, et al	小児外科	Comparison of postoperative urinary complications in laparoscopic-assisted anorectoplasty versus posterior sagittal anorectoplasty for anorectal malformation with rectourethral fistula	Pediatr Surg Int, 40: 111, 2024 Apr	Original Article
4	Hishikawa N, Sawada K, Maeda H et al.	リハビリテーション科	One-Leg Robotic-Assisted Gait Training Efficiently Improves Gait Independence for Acute Stroke Hemiplegic Patients: A Prospective Pilot Study	American Journal of Physical Medicine & Rehabilitation 103(5):444-447.2024 May	Original Article
5	Hishikawa N, Sawada K, Kubo M et al.	リハビリテーション科	Kinesiophysiological analysis associated with changes in subjective intensities in belt electrode-skeletal muscle electrical stimulation: a prospective exploratory study	The Journal of Physical Therapy Science 36(5):284-289.2024 May	Case report
～					

計5件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・ 手順書の主な内容 学長の責務、研究者等の責務等、他機関への既存試料・情報の提供、倫理審査委員会の事務・審査記録の保存、研究により得られた結果等の取扱い、研究の信頼性確保、重篤な有害事象への対応、教育・研究、研究の概要の登録	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 9回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。  
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・ 規定の主な内容 「京都府公立大学法人の利益相反の管理に関する規程」…利益相反の管理や判断基準等を規定 「京都府立医科大学利益相反委員会規程」…設置目的や組織編成等について規定 「京都府立医科大学臨床研究等に係る利益相反の管理に関する取扱規程」…臨床研究等における利益相反の管理について規定	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 12回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 12回
・ 研修の主な内容 「次世代医療基盤法と改正の主旨について」、「研究倫理の原則とその歴史」 「適正な臨床研究とは何か — 研究公正の観点から考える」 「医学研究の補償と保険の基礎知識」、「臨床研究における知的財産の役割」 「人を対象とする研究の倫理・規制と論文・学会発表のルール」 「臨床研究データの品質管理・品質保証、データマネージャーは何を見ているか」 「研究デザインと統計解析の基礎知識（初・中級）」、「臨床研究におけるモニタリング・監査」 「臨床的意義とTPP (Target Product Profile) を意識した 臨床試験のプロトコル作成」	

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

各診療科において、専門医・認定医取得のための高度な医療知識・スキルを習得させる。  
(プログラムは各科ごとに作成)

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数 238 人

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
松原 慎	総合診療科	講師	12年	
三宅 隼人	消化器内科	助教	14年	
中村 猛	循環器内科	准教授	29年	
小牧 和美	腎臓内科	助教	16年	
河内 勇人	呼吸器内科	助教	10年	
岡田 博史	内分泌・糖尿病・代謝内科	講師(学内)	20年	
水谷 信介	血液内科	講師(学内)	18年	
妹尾 高宏	膠原病・リウマチ・アレルギー科	助教	22年	
田中 瑛次郎	脳神経内科	助教	18年	
山本 有祐	消化器外科	講師(学内)	22年	
川尻 英長	心臓血管外科	講師	18年	
藤田 周平	小児心臓血管外科	助教	14年	
下村 雅律	呼吸器外科	准教授	22年	
森田 翠	内分泌・乳腺外科	講師(学内)	16年	
昇 修治	移植・一般外科	講師	26年	
金 聖和	小児外科	助教	15年	
河原崎 彩子	形成外科	講師	22年	

丸山 大輔	脳神経外科	助 教	22 年	
白井 寿治	整形外科	准教授	28 年	
藁谷 深洋子	産婦人科	准教授	22 年	
吉田 秀樹	小児科	助 教	20 年	
鎌田 さやか	眼科	助 教	19 年	
浅井 純	皮膚科	講 師	23 年	
内藤 泰行	泌尿器科	講 師	31 年	
辻川 敬裕	耳鼻咽喉科	講 師(学内)	20 年	
大矢 希	精神科・心療内科	助 教	12 年	
高畑 暁子	放射線科	助 教	23 年	
小川 覚	疼痛・緩和ケア科	講 師	20 年	
沢田 光思郎	リハビリテーション科	准教授	21 年	
森永 友紀子	病理診断科	助 教	17 年	
山本 俊郎	歯科	講 師	29 年	
沢田 光思郎	リハビリテーション部	副部長	21 年	
森永 友紀子	病院病理部	助 教	17 年	
志村 勇司	輸血・細胞医療部	部 長	18 年	
千代延 友裕	遺伝子診療部	副部長	26 年	
稲葉 亨	臨床検査部	部 長	39 年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況 (任意)
<p>・研修の主な内容、研修の期間・実施回数、研修の参加人数</p> <p>R6. 4. 1-11. 29 診療用放射線照射装置 62名 (臨床工学部) R6. 4. 1-30 除細動器研修 5名 (臨床工学部) R6. 4. 9 看護部 医療機器の基礎知識 103名 (臨床工学部) R6. 5. 1-31 ICU ペースメーカー勉強会 5名 (臨床工学部) R6. 5. 1-31 ECMO 研修 5名 (臨床工学部) R6. 5. 29 心カテ勉強会 IVUS 9名 (臨床工学部) R6. 5. 30 エキシマレーザー説明会 2名 (臨床工学部) R6. 6. 1-30 D6 輸液ポンプ IP100 勉強会 4名 (臨床工学部) R6. 6. 1-30 D6 シリンジポンプ TE35 勉強会 4名 (臨床工学部) R6. 6. 4 エイミーPCA説明会 23名 (臨床工学部) R6. 6-7 PICU 除細動器 TE56 勉強会 25名 (臨床工学部) R6. 6. 27 診療用粒子線照射装置 12名 (臨床工学部) R6. 7. 31 ICU ECMO ハンドクランク勉強会 5名 (臨床工学部) R6. 8. 1-31 ICU 血液浄化勉強会 5名 (臨床工学部) R6. 8. 14 ICU ECMO ハンドクランク勉強会 11名 (臨床工学部) R6. 8. 22-10. 1 NICU 保育器勉強会 5名 (臨床工学部) R6. 9. 10 看護部人工呼吸器勉強会 11名 (臨床工学部) R6. 10. 2 診療用放射線照射装置 24名 (臨床工学部) R6. 10. 9, 21, 25 看護部人工呼吸器勉強会 85名 (臨床工学部) R6. 10. 8 看護部人工呼吸器勉強会 11名 (臨床工学部) R6. 10. 9 Plasauto <math>\mu</math> 勉強会 13名 (臨床工学部) R6. 10. 28 masimo root 多項目モニタ勉強会 23名 (臨床工学部) R6. 11. 1-18 保育器勉強会 5名 (臨床工学部) R6. 9. 21-10. 31 EICU 血液浄化勉強会 7名 (臨床工学部) R6. 10. 22 診療用高エネルギー放射線発生装置 30名 (臨床工学部) R6. 10. 21 ICU 人工呼吸器勉強会 5名 (臨床工学部) R6. 10. 21. 25 看護部人工呼吸器勉強会 95名 (臨床工学部) R6. 10. 28, 11. 27 診療用高エネルギー放射線発生装置 22名 (臨床工学部) R6. 10. 28, 11. 27 診療用放射線照射装置 22名 (臨床工学部) R6. 11. 5, 7 看護部人工呼吸器勉強会 57名 (臨床工学部) R6. 11. 13 診療用粒子線照射装置 12名 (臨床工学部)</p> <p>管理栄養士 臨床栄養スキルアップ勉強会 R6. 5. 14 「薬物療法センターにおけるがん栄養指導の実際」 15名 (栄養課) R6. 6. 11 「GLP-1受容体作動薬肥満治療薬の安全適正使用」 17名 (栄養課)</p>

R6. 7. 9	「令和6年度診療報酬改定栄養に関する改訂について（栄養部門）」	17名（栄養課）
R6. 9. 1	「海外研修（オーストラリア 大学病院）の報告」	13名（栄養課）
R6. 10. 8	「心不全ネットワークの現状/心不全と便秘について」	16名（栄養課）
R6. 11. 5	「ONSの飲み方をサイエンスする」	14名（栄養課）
R7. 1. 14	「糖尿病と災害について考える」	17名（栄養課）
R7. 3. 11	「病態栄養学会発表内容の共有」	15名（栄養課）
R6. 5. 9	緊急時対応訓練（アナフェイラキシーショックへの対応）	9名（放射線技術課）
R6. 11. 26	緊急時対応訓練（アナフェイラキシーショックへの対応）	5名（放射線技術課）
R6. 07. 20	放射線技師対象 告示研修プログラム	48人（看護部）
R6. 07. 21	放射線技師対象 告示研修プログラム	48人（看護部）
R6. 08. 10	放射線技師対象 告示研修プログラム	48人（看護部）
R6. 08. 11	放射線技師対象 告示研修プログラム	48人（看護部）
R7. 01/25	放射線技師対象 告示研修プログラム	48人（看護部）
R7. 01/26	放射線技師対象 告示研修プログラム	48人（看護部）
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）		
R6. 6. 27	放射線治療機器の安全使用に関する研修（CBCTシステムにおける注意喚起）	6名（放射線技術課）
R6. 10. 2	放射線治療機器の安全使用に関する研修（特定放射性同位元素に係る防護措置について）	10名（放射線技術課）
R6. 10. 28、11. 27	放射線治療機器の安全使用に関する研修（放射線治療R I Sの機能説明）	10名（放射線技術課）
R6. 11. 13	放射線治療機器の安全使用に関する研修（動体追尾の通常と異なる使用方法について）	7名（放射線技術課）
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修の主な内容</li> <li>・研修の期間・実施回数</li> <li>・研修の参加人数</li> </ul>		

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

## (様式第 5)

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	病院長 佐和 貞治	
管理担当者氏名	副局長（附属病院担当） 松本 浩成	

		保管場所	管理方法		
診療に関する諸記録	規則第二十一条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	病院管理課		
		各科診療日誌	病院管理課		
		処方せん	調剤室、処方箋保管庫		
		手術記録	診療情報管理室		
		看護記録	診療情報管理室		
		検査所見記録	診療情報管理室		
		エックス線写真	診療情報管理室		
		紹介状	診療情報管理室		
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	診療情報管理室		
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・カルテは電子カルテと紙カルテの2種類を管理及び保管。平成20年1月から電子カルテシステムを導入しており、それ以前の紙カルテ（手術記録、看護記録、検査所見記録、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の経過記録の要約等）は診療情報管理室に保管。</li> <li>・処方箋は調剤室、処方箋管理庫。</li> <li>※診療録を病院外に持ち出すことは「診療録貸出・返却要領」で禁止している。</li> </ul>		
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十一条の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課		
		高度の医療の提供の実績	医療サービス課		
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	研究支援課		
		高度の医療の研修の実績	病院管理課		
		閲覧実績	病院管理課		
		紹介患者に対する医療提供の実績	大学経営改革課		
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	大学経営改革課		
	規則第一条の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全推進部		
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全推進部		
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全推進部		
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全推進部		
					<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子データ及び帳票類を各箇所管理している。</li> <li>※院外への持ち出しは基本的に不可としている。</li> </ul>
					<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子データ及び帳票類を各箇所管理している。</li> <li>※院外への持ち出しは基本的に不可としている。</li> </ul>

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染対策部	<ul style="list-style-type: none"> <li>電子データ及び帳票類を各箇所管理している。</li> <li>※院外への持ち出しは基本的に不可としている。</li> </ul>
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染対策部	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染対策部	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染対策部	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	臨床工学部	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学部	
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学部			
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学部 医療安全推進部			

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全推進部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染対策部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全推進部
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療情報管理室
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全推進部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全推進部
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療安全推進部
		監査委員会の設置状況	医療安全推進部
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全推進部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全推進部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療サービス課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	法人本部総務室
		職員研修の実施状況	総務課 医療安全推進部
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全推進部
管理者が有する権限に関する状況	病院管理課		
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	法人本部総務室		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	法人本部総務室		

・電子データ及び帳票類を各箇所管理している。  
※院外への持ち出しは基本的に不可としている。

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

## 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

### ○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
閲覧責任者氏名	病院管理課長 山口 健司	
閲覧担当者氏名	病院管理課 総務調整係長 本 守宏	
閲覧の求めに応じる場所	・病院管理課総務調整係	
閲覧の手続の概要		
閲覧請求者の住所・氏名・請求記録名、閲覧理由を聴取した上で、請求のあった記録を所管する部署から該当資料を取り寄せ、病院管理課内で閲覧に供する。		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

### ○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0件
閲覧者別	医師	延	0件
	歯科医師	延	0件
	国	延	0件
	地方公共団体	延	0件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指針の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療事故を防止し、安全かつ適切な医療を提供する体制</li> <li>・ 安全管理のための基本的な考え方</li> <li>・ 安全管理のための組織</li> <li>・ 医療事故発生時の対応</li> <li>・ 医療事故及びインシデント報告制度</li> <li>・ 職員の教育・研修及び啓発</li> <li>・ 患者相談窓口</li> <li>・ 患者本位の医療の提供</li> <li>・ 診療行為に内在する危険防止のために必要な情報を患者に提供</li> </ul> </li> </ul>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 設置の有無（ 有・無 ）</li> <li>・ 開催状況：年 12回</li> <li>・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 安全管理のための指針の策定及び変更</li> <li>・ 院内で発生した医療事故、インシデントの調査分析、再発防止策の立案・実施</li> <li>・ 安全管理のための教育・研修及び啓発の検討</li> </ul> </li> </ul>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 6回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の内容（すべて）： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 院内発症脳梗塞診療のSpeed upを目指して</li> <li>・ せん妄にどう対処するか ～患者および医療者にとって安全なせん妄マネジメントとは～</li> <li>・ 当院における医療安全の概要2024</li> <li>・ 医療安全の基礎知識</li> <li>・ 中心静脈カテーテルの安全な留置と管理を目指して</li> <li>・ 医薬品安全管理講習会 ～過去の事例から振り返る～ 知っておくべきリスクの知識</li> </ul> </li> </ul>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機関内における事故報告等の整備（ 有・無 ）</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ オカレンス報告の実施</li> <li>・ セーフティマネージャーが参加する医療安全サポート会議での事例共有・検討、安全対策の検討</li> <li>・ 職員間での情報共有と注意喚起のためのインシデント事例等を掲載した「医療安全ファイル」の作成 供覧</li> <li>・ 医療安全推進部レターによる情報提供と注意喚起</li> <li>・ 急変対応ワーキングチームによるシステムの見直し、院内蘇生講習</li> <li>・ 医療安全のための院内ラウンドの実施</li> </ul> </li> </ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指針の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 院内感染対策に関する基本的な考え方</li> <li>・ 院内感染対策のための委員会その他の当該病院等の組織に関する基本的事項</li> <li>・ 院内感染対策のための従事者に対する研修に関する基本方針</li> <li>・ 感染症の発生状況の報告に関する基本方針</li> <li>・ 院内感染発生時の対応に関する基本方針</li> <li>・ 患者への情報提供と説明に関する基本方針</li> <li>・ 病院における院内感染対策の推進における基本方針</li> </ul> </li> </ul>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感染症発生状況（対応状況も含む）</li> <li>・ MRSA等耐性菌の発生状況報告（対応状況も含む）</li> <li>・ 抗MRSA薬、抗緑膿菌活性を有する抗菌薬等の使用状況報告（適正使用に関する指導状況も含む）</li> <li>・ 擦式手指消毒用アルコール製剤の使用状況報告</li> <li>・ 新型コロナウイルス感染症の流行状況と院内での対応の報告（対応状況も含む）</li> <li>・ ICTニュース発行時の内容報告</li> <li>・ その他院内感染対策の推進に関する方策の検討</li> </ul> </li> </ul>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 3回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の内容（すべて）： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ①結核（e-learning研修・院内研修視聴会）</li> <li>・ ②抗菌薬と手指衛生（e-learning研修・院内研修視聴会）</li> <li>・ ③冬の感染症に向けて（e-learning研修・院内研修視聴会）</li> </ul> </li> </ul>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院における発生状況の報告等の整備（有・無）</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各所属に「感染対策推進員」を配置し、院内感染対策の推進や院内感染事例が疑われた際、感染対策部との連携を図り迅速な初動につなげている。</li> <li>・ 看護部門は「リンクナース」を配置し、2か月に1回の定期的な会を開催し院内感染対策の推進を図っている。</li> <li>・ 感染症情報やその対応について、院内主要会議でのアナウンスを行い、電子カルテシステムの掲示板の活用等の手段により随時周知徹底を図っている。</li> </ul> </li> </ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 6回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>&lt;全職員対象&gt;</p> <p>○医薬品安全管理セミナー          テーマ：知っておくべきリスクの知識 対 象：全職員          方 法：mSafe (2024/11/1-11/30) /DVD</p> <p>&lt;新規・中途採用者対象&gt;</p> <p>○新規・中途採用者オリエンテーション          テーマ：医薬品のオーダ上の留意点 対 象：医師・歯科医師          方 法：mSafe (2024/4/1-2025/3/31)</p> <p>○新規採用者研修          テーマ：新人看護師のための薬の知識          対 象：看護師          方 法：対面 (2024/6/17, 6/24)</p> <p>&lt;薬剤師対象&gt;</p> <p>○新人薬剤師対象「医薬品の適正使用と適正管理」          開催日：2024/4/1-3</p> <p>○中途採用薬剤師対象「同上」          開催日：2024/4/5</p> <p>&lt;その他&gt;</p> <p>○病棟担当薬剤師による各病棟での学習会等 (7回)</p> <p>○担当薬剤師による手術室新規配属医師への麻薬・筋弛緩薬の取扱い (10回)</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 (有・無)</p> <p>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：</p> <p>1) 業務手順書に基づく年2回の業務チェックと手順書の見直し</p> <p>・ 係長以上と医療安全推進部担当薬剤師で年2回、業務手順書の再点検をし、医療に関する安全管理対策会議に諮った上で手順書を改定</p> <p>2) 医薬品安全管理に関する院内ラウンド</p> <p>・ 係長以上で年1回、全部署を訪問。手順書に基づく業務の遂行、特に医薬品や鍵、注射シリンジ等の管理状況、救急カート薬や備品の安全な使用、口頭指示の適切な運用、薬剤部から発信している情報の共有状況、輸液ソフトバックを取り扱う際のピンホールの有無のチェック、PTPシートの誤飲対策等を確認</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例 (あれば)：</p> <p>ハブリックス (A型肝炎ワクチン)、タイフィム (腸チフスワクチン)、ベロラボ (狂犬病ワクチン)、プリオリックス (麻疹・風疹・ムンプスワクチン)、ブーストリックス (破傷風・百日咳・ジフテリアワクチン) を渡航ワクチン外来で使用</p>	

- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
  - 1) 未承認薬、適応外処方等の情報収集等
    - ① 医学倫理審査委員会、臨床倫理委員会での関わり
      - ・ 未承認薬及び適応外処方の審査及び安全な投与に向けた介入
    - ② 薬剤部内・病棟内でのかかわり
      - ・ 未承認薬の持込 → 入退院センター業務、病棟薬剤業務、DI業務の中で把握
      - ・ 病棟での適応外使用 → 病棟薬剤業務の中で把握
  - 2) 院内での医薬関連事故等の把握と対策
    - ① 医療に関する安全管理対策委員会、医療安全サポート会議での検討（各月1回）
    - ② 医薬品安全管理委員会での検討（月2回）
      - ・ アクシデント事例、ヒヤリハット事例の共有と対策の立案
      - ・ 未承認薬の処方状況の把握と共有
  - 3) 薬剤部での通常の実行（主なもの）
    - ① DIニュースの発行（月1回）
    - ② 緊急安全性情報・安全性速報、厚労省医薬品・医療機器等安全性情報の他、重要な通知に関する電子カルテへの掲示、院内配布
    - ③ 重要な情報は患者を特定し処方医に文書で通知し、確認印の押されたものを薬剤部で回収
    - ④ 粉碎・一包化の可否情報、麻薬Q&A等、薬剤部で加工した文書の電子カルテへの掲示
    - ⑤ 向精神薬の重複処方・過剰処方のモニタリングと注意喚起
    - ⑥ 注射薬ラベルへのルート・フィルター選択上の注意記載
    - ⑦ トレーシングレポートシステム、フォローアップシートの推進

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 21回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人工呼吸器の取り扱い、人工呼吸管理、補助循環、ペースメーカー、新規導入機器、血液浄化、汎用型医療機器（輸液ポンプ、シリンジポンプ、吸引器）、放射線機器、他</li> </ul> </li> </ul>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機器に係る計画の策定 ( 有・無 )</li> <li>・ 機器ごとの保守点検の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ MEセンターによる年1-2回の定期点検、特定保守管理機器（生命維持管理装置関連）の臨床工学士またはメーカー点検を前年度末に作成した点検計画に沿って実施</li> </ul> </li> </ul>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 ( 有・無 )</li> <li>・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：</li>   <li>・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 院内での医療機器に関する医療事故関連情報の把握： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療安全サポート会議（1回/月）</li> <li>・ 医療に関する安全管理対策委員会への参加（1回/月）</li> </ul> </li> <li>・ 臨床工学部からの医療機器関連安全並びに取扱い方法に関する情報の発信： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ MEセンター通信の発行（4回/年以上）</li> </ul> </li> <li>・ 患者への対応を必要とした事例に関しては医療安全推進部へオカレンスレポートを提出し、関連部署等と共有</li> </ul> </li> </ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格（<input checked="" type="checkbox"/>医師・<input type="checkbox"/>歯科医師）</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全担当の副病院長、医療に関する安全管理対策委員会の委員長として病院全体の安全に関わる事柄を統括し指示・指導を行っている。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> （ 8名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>医薬品情報室において、院内の医薬品の使用状況を月1回確認している。その結果を踏まえて、添付文書情報（禁忌等）、緊急安全性情報、未承認医薬品の使用時又は医薬品の適応外使用時の安全管理に係る情報を整理し、医薬品安全管理責任者に報告する。</p> <p>緊急安全性情報、医薬品・医療機器等安全性情報、医薬品の回収情報など周知徹底の必要な情報は、既に電子媒体や紙媒体など複数の方法によって確実かつ速やかに提供している。</p> <p>特に重要な情報については、処方患者を特定し処方医に注意文書を配布するとともに、処方医に閲覧印を取った後、回収することによって、周知を徹底している。</p> <p>・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>＊申請書、同意書の確認</p> <p>＊使用の妥当性に関する情報収集と事前審査</p> <p>＊使用後のモニタリング</p> <p>・ 担当者の指名の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無）</p> <p>・ 担当者の所属・職種：</p> <p>（所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師 ） （所属： ， 職種 ）</p> <p>（所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ）</p> <p>（所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ）</p> <p>（所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ）</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<p>・ 医療の担い手が説明を行う際と同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 （ <input checked="" type="checkbox"/>有・無 ）</p> <p>・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認及び指導の主な内容：</p> <p>全身麻酔手術を実施する症例を中心に、説明同意書や診療録を確認し、定められた事項の遵守状況の点検を行い、必要時、指導を行っている。院内全体に周知が必要な内容は、医療安全研修の中で取り上げたり、臨床部長会、診療科長会議、合同師長会などで周知を行っている。</p>	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>「退院時要約」、「手術記録」、「入院診療計画書」、「継続看護記録」について作成の有無を確認するなど診療記録の量的点検に取り組んでいる。</p> <p>また、「診療記録記載指針」を策定し、記載すべき項目や留意点を示して職員研修を実施するとともに、医師、看護師、コメディカルからなるWGにより診療記録の質的 point 点検及び意見交換を行い、その結果を各所属にフィードバックすることで、診療記録の質的向上にも取り組んでいる。</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<p>・所属職員：専従（４）名、専任（１）名、兼任（１１）名</p> <p>うち医師：専従（１）名、専任（ ）名、兼任（２）名</p> <p>うち薬剤師：専従（１）名、専任（ ）名、兼任（２）名</p> <p>うち看護師：専従（２）名、専任（ ）名、兼任（１）名</p> <p>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療に関する安全管理対策委員会の運営</li> <li>・ 医療事故、インシデント、オカレンスに係る報告のとりまとめ、および病院長への報告</li> <li>・ 医療事故、インシデントの発生原因の調査、分析</li> <li>・ 安全対策の実施状況、医療事故発生時の対応状況に関する調査、確認、指導</li> <li>・ 安全管理のための教育、研修の実施</li> <li>・ 安全対策の推進</li> <li>・ 院内死亡事例の確認と病院長への報告</li> <li>・ インフォームド・コンセント実施要綱に従った説明同意書の作成推進と要綱の遵守状況の点検</li> <li>・ 集中治療部門、手術部門、内視鏡・超音波部門、放射線部門、医療機器関連、薬剤部で一定の基準以上の事象が発生した事例の把握（オカレンス報告）、全身麻酔手術時の血栓予防策実施率、入院患者の転倒・転落発生率・心肺蘇生実施の把握・報告書管理評価対応状況などのモニタリングの実施</li> </ul> <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。</p> <p>※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。</p>	
⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
<p>・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（３件）、及び許可件数（３件）</p> <p>・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ 有・無 ）</p> <p>・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ 有・無 ）</p> <p>・活動の主な内容：</p>	

高難度新規医療技術による医療を行う場合に、実施の適否等について審査及び承認を行うほか、当該医療を行う職員の遵守事項等の遵守状況を実施結果報告書により確認している。高難度新規医療技術を行う診療科の実施体制について、毎年年度初め及び体制の変更時に報告を受け確認している。高難度新規医療技術導入審査委員会 3 回開催

- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (  ・ 無 )
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無 (  ・ 無 )

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数 (16 件) 、及び許可件数 (16 件)
- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無 (  ・ 無 )
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 (  ・ 無 )

・ 活動の主な内容 :

未承認薬等を使用する医療を行う場合に、実施の適否等について審査及び承認を行うほか、当該医療を行う職員の遵守事項等の遵守状況を実施結果報告書により確認している。

臨床倫理承認委員会 11 回開催

- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (  ・ 無 )
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (  ・ 無 )

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況 : 年 331 件
- ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の実態及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況 : 年 59 件
- ・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
  - ・ 発生した事例の調査分析、並びに再発防止策の立案及び実施

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・ 他の特定機能病院等への立入り (  (病院名 : 香川大学医学部附属病院) ・ 無)
- ・ 他の特定機能病院等からの立入り受入れ (  (病院名 : 徳島大学病院) ・ 無)
- ・ 技術的助言の実施状況

(医療安全) 医療安全管理部門へ歯科医師を配属させることで歯科に関する事案へのより迅速で専門的な対応が可能になると思われる。

→ (助言に対する実施状況) 医療安全推進部員に歯科医師を増員する方向で検討中である。

(医薬品) 抗がん剤の注射オーダーに関して、レジメンオーダーと注射オーダーが併用運用されている。レジメン審査を受けたレジメンオーダーでの運用とするなどの検討が望まれる。

→ (助言に対する実施状況) 入院患者に対する抗がん剤の注射オーダーに関して、原則レジメン審査委員会で審査・承認を受ける体制の構築を検討中である。

(高難度) すべての診療科に実施体制を確認する手順、ルールまたは仕組みがあることが望ましい。

→ (助言に対する実施状況) 年度初めに各診療科に申請中の実施体制から体制変更の有無を確認する運用に改訂し、2025年度より開始している。

#### ⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

##### ・体制の確保状況

「患者相談等に関する要綱」に基づき、平成15年4月1日から「患者相談窓口」(医療サービス課所管)を設置し、MSW、専門相談員(事務職員)等が、平日の午前8時45分から午後5時まで対応している。

その際に、患者や家族等からの相談や要望、意見等を専門相談員・MSWがお聞きし、必要な場合は医療安全推進担当者等の各専門担当者に引き継ぐなど行い対応、支援することとしている。

※窓口が開いていない休日や時間外では、(急を要する場合など)必要に応じて(医師や看護師等が)可能な範囲で対応するよう心掛けている。

#### ⑫ 職員研修の実施状況

##### ・研修の実施状況

全職員を対象とした医療安全研修会として、特定機能病院における医療安全、医療安全にかかわる院内の取り決めや、安全な医療を行うために必要な知識、超急性期脳梗塞の診療体制に関する再周知などの研修を実施した。また、新採用者、研修医に対しては、インシデント・アクシデント報告の流れ、具体的事例の改善策についての研修を実施した。

##### 研修内容

- ・研修医、新人看護職員対象「医療安全対策について」(集合)
- ・新採用医師、新採用医療技術職対象「特定機能病院における医療安全」(オンライン)
- ・院内発症脳梗塞診療のSpeed upを目指して(オンライン)
- ・せん妄にどう対処するか ~患者および医療者にとって安全なせん妄マネジメントとは~(オンライン)
- ・当院における医療安全の概要2024(オンライン)
- ・医療安全の基礎知識(オンライン)
- ・中心静脈カテーテルの安全な留置と管理を目指して(オンライン)
- ・医薬品安全管理講習会 ~過去の事例から振り返る~ 知っておくべきリスクの知識(オンライン)

(注) 前年度の実績を記載すること(⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

日本医療機能評価機構 2024年度特定機能病院管理者研修受講（2025/2/14）  
医療安全管理責任者：  
日本医療機能評価機構 2024年度特定機能病院管理者研修受講（2024/11/26）  
医薬品安全管理責任者：  
日本医療機能評価機構 2024年度特定機能病院管理者研修受講（2025/1/15）  
医療機器安全管理責任者：  
日本医療機能評価機構 2024年度特定機能病院管理者研修受講（2025/1/17）

（注）前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

（公財）日本医療機能機構評価機構実施の病院機能評価を受審（受審区分：一般病院3）

※受審年月：令和4年8月

※認定期間：令和3年3月19日～令和8年3月20日

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う審査特例措置により認定期間を延長

令和6年3月に受審した確認審査により、条件付きが解除となった。

令和7年8月に改善審査を受審（審査中）

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

評価の結果（認定等）については、病院のHP及び院内に掲示し、公表している。

・評価を踏まえ講じた措置

確認審査受審に向けC評価となっていた3項目について、各担当部署で下記改善活動を実施し、条件付きが解除となった。

- 1.4.2 医療関連感染制御に向けた情報と検討を行っている：VAEサーベイランス対象を一般病棟に拡大
- 1.5.2 診療の質の向上に向けた活動に取り組んでいる：病院機能評価可視化プロジェクトに参加等
- 3.1.7 医療機器管理機能を適切に発揮している：機器の全数把握とシリンジ、輸液ポンプの使用後点検を実施

次年度予定されている更新審査に向け、引き続き改善活動を実施している。

（注）記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基準の主な内容           <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 学内外を問わず、日本国の医師免許を有する者</li> <li>(2) 附属病院の理念及び基本方針に基づいた病院運営を行う能力を有する者</li> <li>(3) 医療安全管理業務の経験、患者の安全を第一に考える姿勢及び指導力等を有する者</li> <li>(4) 病院での組織管理経験及び高度な医療を司る特定機能病院の管理運営上必要な資質及び能力を有する者</li> </ol> </li> <li>・ 基準に係る内部規程の公表の有無 ( <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 )</li> <li>・ 公表の方法 京都府公立大学法人ホームページで公表</li> </ul>
---

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有・無			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 ( 有 ・ 無 )</li> <li>・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 ( 有 ・ 無 )</li> <li>・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 ( 有 ・ 無 )</li> <li>・ 公表の方法</li> </ul>				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の 関係
藤井 和男	公立大学法人本部	未選任 今後選任予定	選考等に関する規程第2条第3項第1号	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
夜久 均	京都府立医科大学		選考等に関する規程第2条第3項第2号	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
橋本 直哉	同 脳神経外科学		選考等に関する規程第2条第3項第3号	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
佐和 貞治	同 附属病院		選考等に関する規程第2条第3項第4号	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
井上 匡美	同 呼吸器外科学		選考等に関する規程第2条第3項第5号	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
藤本 早和子	同 附属病院看護部		選考等に関する規程第2条第3項第6号	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
松本 浩成	同 附属病院事務部		選考等に関する規程第2条第3項第6号	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
岡村 吉隆	誠佑記念病院		選考等に関する規程第2条第3項第7号	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
松田 晋哉	福岡国際医療福祉大学		選考等に関する規程第2条第3項第7号	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	有・無
<p>・合議体の主要な審議内容</p> <p>(1) 京都府立医科大学附属病院の運営方針に関すること。</p> <p>(2) 附属病院の中期計画・年度計画に関すること。</p> <p>(3) 附属病院の予算・決算に関すること。</p> <p>(4) その他附属病院の運営に関する重要な事項に関すること。</p> <p>・審議の概要の従業者への周知状況</p> <p>会議での審議の概要については、臨床部長会等で周知を行う。</p> <p>・合議体に係る内部規程の公表の有無（有・無）</p> <p>・公表の方法</p> <p>・外部有識者からの意見聴取の有無（有・無）</p>	

合議体の委員名簿

氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
佐和 貞治	○	医師	病院長
高山 浩一		医師	副病院長
高橋 謙治		医師	副病院長
家原 知子		医師	副病院長
福井 道明		医師	救急救命センター長
藤本 早和子		看護師	副病院長、看護部長
中村 猛		医師	医療安全推進部長
小阪 直史		薬剤師	薬剤部長
中田 克哉		放射線技師	医療技術部長
松本 浩成		事務	事務局副局長（事務部長）
秋吉 裕美		事務	大学経営改革監
山口 健司		事務	病院管理課長
辻田 比佐子		事務	医療サービス課長
鍛 智行		事務	総務課長
木森 優		事務	経理課長
大西 勝		事務	企画課長
岡下 武生		事務	研究支援課長
小原 尚樹		事務	大学経営改革課長

## 規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

### 管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（  ・ 無 ）
- ・ 公表の方法  
学内ホームページに掲載（他の大学規程と同様の扱い）
- ・ 規程の主な内容  
京都府立医科大学附属病院規程  
第5条第3項 病院長は、本院の管理運営を統括するとともに次の事項を専行するものとする。  
。（以下略）  
  
京都府立医科大学附属病院規程  
第6条第3項 教授の職にある副病院長は、病院長又は病院長予定者が診療部長の職にある者の中から指名するものとする。  
※京都府立医科大学附属病院規程において、病院内の各役職ごとに、病院長が指名する旨を同様に規定。  
  
京都府立医科大学附属病院管理運営会議規程  
第2条（所掌事項）第3号 附属病院の予算・決算に関すること。  
第4条（会議）病院長は、会議を招集し、その議長となる。
- ・ 管理者をサポートする体制（副病院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割  
管理者をサポートする体制として、以下の会議を規程により設置
- ・ 病院経営改善推進会議（病院の経営改善の方針、運営を審議。病院長、副病院長等で構成）
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
- ・ 病院長の指名により副病院長、薬剤部長、医療技術部長等の管理職員を配置している。  
また、中央部門の長等及び各種委員会の委員についても病院長が指名している。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年 2回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>病院の医療安全推進部、医療に関する安全対策委員会、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者等の業務の状況について、病院長から報告を求め、又は必要に応じて自ら確認を行う。</p> <p>必要に応じ、医療に係る安全管理については是正措置を講ずるよう意見を表明する。</p> <p>監査の結果について速やかに公表する。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>有・無 ）</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>有・無 ）</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>有・無 ）</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>有・無 ）</p> <p>・ 公表の方法：京都府公立大学法人ホームページに掲載</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
松村 由美	京都大学医学部附属病院	○	特定機能病院の医療安全管理体制に精通している。	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
平野 哲郎	立命館大学法科大学院法務研究科		法律研究者として関係の法律に精通している。	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
清水 智治	滋賀医科大学医学部附属病院		医療安全管理に関する専門的知識を有している。	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
秋篠 憲一			本院の患者として医療を受ける者の代表	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	2

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

京都府公立大学法人会計規則

京都府公立大学法人内部監査要綱

京都府公立大学法人コンプライアンス推進規程

京都府公立大学法人コンプライアンス委員会設置要綱

京都府公立大学法人会計規則及び京都府公立大学法人内部監査要綱により、法人内の業務運営が法令等に基づいて適切に執行されているか、内部監査員による監査を行っているところ。

併せて、京都府公立大学法人総務・経営担当理事を委員長とし、法人所管の2大学の学長、附属病院長、法人の教職員の身分を有していない理事のほか、コンプライアンスに関する有識者で構成するコンプライアンス委員会において、コンプライアンスの推進に係る制度の実施状況の把握、点検、評価等を行うとともに、通報事案の解決策の明示、再発防止策の策定を行っている。

・ 専門部署の設置の有無 (  ・ 無 )

・ 内部規程の整備の有無 (  ・ 無 )

・ 内部規程の公表の有無 (  ・ 無 )

・ 公表の方法

内部監査計画及び内部監査結果並びにコンプライアンス推進規程及び内部通報制度に関する要綱を京都府公立大学法人のホームページに掲載

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 京都府公立大学法人理事会</li> </ul> <p>病院長は理事として出席 規程に理事会の所掌として明記の上、病院の業務実績等について定期的に報告する等病院業務の監督を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会議体の実施状況（年 11回）</li> <li>・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（<input checked="" type="checkbox"/>有・無）（年9回）</li> <li>・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無）</li> <li>・ 公表の方法 京都府公立大学法人のホームページに掲載</li> </ul>			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 ( <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 )</li><li>・ 通報件数 (年 1件)</li><li>・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 ( <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 )</li><li>・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 ( <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 )</li><li>・ 周知の方法 京都府公立大学法人及び京都府立医科大学附属病院ホームページに掲載 京都府立医科大学コンプライアンス指針に掲載 (教職員研修等で周知)</li></ul>

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・ 情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>病院ホームページに本院の特定機能病院としての医療提供に係る特色、病院の理念・基本方針各種指定の状況等について掲載し、情報発信を行っている。</p> <p>また、患者向け広報誌を発行 (年 2 回) し、院内での取組等について、定期的に情報発信を行っている。</p>	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>外来では、消化器センター、循環器センター、呼吸器センターなど 7 つのセンターで、複数診療科が連携して診療対応に当たっている。</p>	